巻頭言

今も私を支えているもの



(財)日本ハンドボール協会理事　金原　至

有磯の海を眺め下ろすようにして連なる山脈は、私に限りない郷愁を呼び覚まし、今でもあのうっそうとした木立の中から子供のころの私たちの声が聞こえてくるような気がする。

私の育った一刎の村は、昭和15年頃は人口700人、小学生は90人、同級生は21名であった。我々は6年生の一人を大将にして、時間の経つのを忘れて山々を駆け回って遊んだ。どの木もどの木も子供の手によって触られ、なでられ揺さぶられた木であり、足をかけて木登りしたものである。春にはわらびの出場所は知っていたし、夏には昆虫の居場所や、蚊の出没も予感できた。秋には栗拾い、きのこ狩りと子供ながらに大人から伝授されたり、自分たちで探した宝庫を持っていた。冬の竹スキーも痛快であり、雪道の落とし穴作りの悪戯も、子供の喝采を浴びる遊びであった。春夏秋冬の移り変わりの中で工夫された遊びは、子供の感覚を刺激し磨き、鍛え上げていった。敏しょうな行動は子供同士の競争から養われていった。体が小さくても負けたくない、一番乗りをしたいという子供心は、体を操る能力を磨き、反応時間を早くし、障害をするっとくぐり抜けるすばやさを作り上げた。一刎の山々を我がもの顔に駆け回った遊びが、私の運動神経を鋭くさせ、小さい体に自信をもたせた。

また、村の子供が、ガキ大将の後ろについて歩く姿は、まさに小さな軍隊の行進のようであった。ガキ大将の統率力を見ながら、子供ながらに大将の資格の如何なるものかを積み上げていった。力と技と心の兼ね備えた者への称賛の心を育てていったのである。

氷見では俗に言う山の学校、氷見中学に入学し、ひき続き高校となり6年間在学することになった。その間、ハンドボールに興味をもった同士が全国大会出場を目指し、泥をなめ地面をはいずるような過酷な練習を自分たちで強いて青春時代をおくるようになった。仲間は15人、指導者のいない部活動、そして主将に選ばれたのがこの私。15人の中には勉強もできるし、人望の厚い者もいたのに、どうして私が選ばれたのか。言うなればガキ大将の到来でしかなかったと思っている。「勝つ」ことしか考えなかった。勝つためには敵なしである。いずれにせよ、15人の者はすばらしい仲間であった。仲間に恵まれ支えられていた。星を見ながら帰ることに無上の喜びを感じ、すき腹を満たすのに体裁をかまわずハシゴした仲間、「勝つか、負けるか」しか考えず、裸足でも全国大会なるものに出場しようと意気込んだ輩でもあった。指導者がいないので手さぐりの練習。今でいう科学的練習には縁遠い。役立つのは幼少から養った勘のみ。グラウンドに響くのは、走れ、投げろ、まかしとけ、やったぞ、と仲間の怒声と歓喜の声だけ。そして少しずつ知恵を絞り練習して作り上げた手作りのハンドボール。これを引っさげて全国大会に出場した感激は筆舌に尽くせない。まさに青春したのである。

これをきっかけに、私の人生は180度回転し、大学に進学、卒業後母校で生徒と再びハンドボールに明け暮れ、幸いにも「日本一」を勝ち取る幸せ者になれた。

大学ではすばらしい指導者や先輩に巡り会えた。渇望している者に水、汲めども尽きせぬ奥深さをもった指導者に恵まれた。さらに、よき先輩、よき同僚、この経験が私に教鞭をとらせ、ハンドボールへとかきたてたと思っている。

一刎の村で遊びたいだけ遊んで磨かれた感覚、15名の仲間ががっちりスクラム組んで励んだ氷見高校時代、そしてハンドボール一途に没頭した青春の力こそ、現在の私を作り育ててくれたと痛切に感じている今日この頃である。

第17回 男子世界選手権大会報告
地元フランスが2度目の栄冠に輝く

報告1
田口 隆



【今回での認識】

①オリンピックから世界選手権大会までの間隔が狭く、大会にもタイトルを争う以外に他の付加価値的要素がなく、チーム間によってはモチベーションに大きな違いがあった。地域的には、アフリカ・南米チームのモチベーションの高さが見られた。

～具体例～

[フランス]

地元開催であったことと、エントリー選手のうち3名を除いて国内でプレーする選手で構成されていた。監督としては他にも候補があったようだが、彼らは他国でプレーし、その所属でのプレーとナショナルチームでのプレーをするなかで、モチベーションの維持が出来なく、辞退したようであった。

[スウェーデン]

アテネオリンピックを見据えた上で国際経験の少ない選手の起用があった。その若い選手たちはモチベーションも高く、また超ベテラン連中も健在で彼らの勝利に対する執着心は非常に高いものが見られた。しかし、今までのように60分間フルにプレーすることは出来なかった。

[ユーゴスラビア]

オリンピック後、監督が代わり今まで得点源であった選手をメンバーから外し、切り札的存在がないようであったが、チームとしての統制があり、特にディフェンス面でのモチベーションの高さが見られた。自分が見たなかでは今大会のベストチームであったように思う。

[エジプト]

各大会ごとに高いモチベーションを持ち続けていて今回も同様以上であった。原因の一つとしてはオリンピックから監督が代わり、今まで個人プレーに走りがちだったところを改善し、チームとしての統制がとれてきた。その結果ドイツに勝ったりと結果もついてきたため、選手が上のものを欲する気持ちが今まで以上にあったように思う。それともう一つ、IHF会長に自国のムスタファ氏が就任したことも今までヨーロッパが主流であったものの流れが自分たちに流れてきているというようなプライドもプラスされたとの評判であった。

[クウェート]

体格・体力的に互角である場合にはある程度のモチベーションが見られたが、負けが続いたり、特にオフェンス面で成功が得られない場合に集中力を欠くケースが多かった。サウジアラビアも同様で、大会への準備がラマダンによって充分に出来ず、選手自身が世界のトップレベルに対しては自信が持てず、モチベーションの低下を生み出した。(自国での選手育成カリキュラムがなく、すべてがナショナルチーム監督に委ねられる。)

②レフェリーのジャッジで勝敗が左右される。当然今までにこのようなことは何度も言われてきたことだが、今回の大会で準決勝・決勝で再認識させられた。

～具体例～

[準決勝] スウェーデン対ユーゴスラビア

どのような理由で決められたかは定かではないが、マケドニアのレフェリーが担当した。試合当初は実力的にスウェーデンの力が勝っている状態であったが、後半にユーゴが追い上げてきた場面で微妙な判定が多く、ユーゴの追撃ムードに水をさすケースが度々見られた。(理由として考えられることは、スポーツの中での世界平和をアピールしたものではないかと考えられるが…)

[決勝] フランス対スウェーデン

ノルウェーのレフェリーが担当した。従来スウェーデンが試合をする時にはＤＦにおいてビスランデル・リンドグレンといったようなベテラン選手に対して寛大なジャッジがあったが、試合早々から厳しく指摘されていた。またＯＦにおいてもビスランデルがポストディフェンス選手と接触した際のジャッジが以前はスウェーデンに対して有利になっていたものが、この決勝に限って言えばノーマルかややフランス有利になっていた感があった。もともとはすべてのレフェリーがスウェーデンのトップ選手の顔色を見ながらのジャッジであったが正常に戻ったに過ぎないが、戻すための原動力はどこにあったのか考えさせられる。

③ユーゴスラビアのコーチが先に行われた世界学生選手権時の監督であった。完全にナショナル強化の一本化が図られているようであった。

④フランスは自国開催ということもあり当然と言えば当然だが、その他の国々のトップ指導者たちも試合会場に来ていた。このことは時代の流れに反応をしたことと、自ら世界のトップレベルを体感することで、自身の指導者としてのモチベーションを高めているものと考えられる。

⑤今大会でのデータ集計には中国のソフトが使用された。結果的には誤った集計が出たり、入力者が不慣れなど諸問題が多かった。私が話をしたフランス人担当者は、「なぜIHFが事前にテストケースもなく、メインのシニアの世界選手権で実行に踏み切ったか不思議である」と語っていた。「多くの入力者はフランス人でありフランスのデータ処理ソフトはヨーロッパでは実績があるのに何故」という声が多くあった。このことから中国はすでに2008年オリンピックのための動きを見せているのではないか？

⑥プレースタイルとしてはオフェンス面では一つのポジションを１人が担当するのではなく、近代的なスタイルはポジションを１人の選手が移動しながら、複数のポジションをプレーすることが主流となってきている。しかし、ジュニア期からの指導で徹底的に個人の能力が高い韓国などはあまり頻繁にポジションを変えることをしないで固定でプレーすることが多い。(尹・白といった個人能力の高い選手をもっている。)

ディフェンス面ではスウェーデン、ドイツがほぼフルタイムで６－０のシフトを採用しているものの、５－１のシフトを採用しているチームが多かった。また、ＤＦから速攻がシステム的に確立されているチームが優位であった。
＊この戦力・戦術分析については後日詳しく整理したものを報告させていただきます。

⑦大会会場については私が滞在したナント市は市の中心部からおよそ３kmほどの距離で、徒歩でも動ける範囲であった。セキュリティーの面では、傘、カン類、ペットボトルといった物が持ち込みの規制を受けた。また、会場内ではボランティアの方々の丁寧な席を案内で、混雑らしい混雑はなかった。

熊本大会以来、前回のエジプト大会同様に、今大会も子供たちの動員があった。開会セレモニーの時は子供たちが会場の大半を占めていた。この時だけはセレモニーと第１試合のためだけのチケットで、２試合目以降は入れ替えをした。また駐車場には多くのバスが置かれており、団体での来場が多かったこともわかった。

マルセイユ会場では試合終了後、午後10時くらいにもかかわらず会場隣の地下鉄の駅が閉っており、交通の便の悪さが感じられた。しかし多くの観客は地元の人たちなので私と同じように感じたかどうかはわかりませんが…。マルセイユ会場もナント会場同様、九割がた観客席は埋まっていた。

⑧決勝のチケットが欲しくて探したが手に入らず、ドイツの橋本を呼ぶことが出来なかった。後にノルウェーの女子の監督と話をした際にノルウェー協会の人が大量に持っていた。これはノルウェーがベスト８以上に進出した場合にと、ノルウェー協会が用意をしていたということを聞いた。(結果的にノルウェーは進出できずチケットが余ることになってしまったが…)。

報告２



玉村健次

１月23日から２月４日までフランス各地で開催された第17回男子世界選手権大会を田口監督と共に視察した。

今回の視察のねらいは、５月に開催される東アジア競技大会と来年に開催される第14回アジア競技大会に向けての対策として今回アジア代表として出場した３国(韓国・クウェート・サウジアラビア)の予選リーグからの戦いをすべてビデオで撮影し、選手の特色・チーム戦術などを分析することであった。さらにもう一つのねらいは、世界の強豪国の新しい技術・戦術を分析することであった。

大会運営上ビデオ撮影など禁止する大会や会場が以前にもあったことから少し不安であったが、幸いにも韓国・クウェートの会場ではビデオ撮影の許可がおりた。

予選リーグでのアジア各国の成績は、韓国３勝２敗、クウェート５敗、サウジアラビア５敗と韓国だけが予選リーグ４位でエイトファイナルに進出しただけで残りの２チームは予選敗退となった。

Ｃグループでの韓国の戦いぶりは、スペイン、ドイツ戦

第17回 世界男子ハンドボール選手権大会　予選リーグ

2001．1．23～2．4　フランス

Groupe A
モンペリエ

		スウェーデン	エジプト	アイスランド	ポルトガル	モロッコ	チェコ共和国
1	スウェーデン		29○23	24○21	32○25	33○19	33○21
2	エジプト	23●29		24○22	23○19	28○19	26△26
3	アイスランド	21●24	22●24		22○19	31○23	29△29
4	ポルトガル	25●32	19●23	19●22		30○26	29○19
5	モロッコ	19●28	19●28	23●31	26●30		23●40
6	チェコ共和国	22●29	26△26	29△29	19●29	40○23	

Groupe B

		フランス	ユーゴスラビア	アルジェリア	アルゼンチン	ブラジル	クウェート
1	フランス		22○20	23○13	23○13	29○19	30○14
2	ユーゴスラビア	20●22		23○20	32○10	31○23	40○14
3	アルジェリア	13●23	20●23		23△23	25○20	26○13
4	アルゼンチン	19●28	10●32	23△23		20○19	22○16
5	ブラジル	19●29	23●31	20●25	19●20		27○19
6	クウェート	14●30	14●40	13●26	16●22	19●27	

Groupe C
ブザンソン

		スペイン	ドイツ	クロアチア	韓　国	グリーンランド	アメリカ
1	スペイン		31○22	27●32	26○17	31○16	45○18
2	ドイツ	22●31		23△23	33○26	39○8	40○12
3	クロアチア	32○27	23△23		33●38	25○15	41○12
4	韓　国	17●26	26●33	38○33		27○20	37○21
5	グリーンランド	16●31	8●39	15●25	20●27		26○18
6	アメリカ	18●45	12●40	12●41	21●37	18●26	

Groupe D
ダンケルタ

		ロシア	ウクライナ	チュニジア	ノルウェー	スロベニア	サウジアラビア
1	ロシア		30○27	23○20	25△25	33○30	29○18
2	ウクライナ	27●30		24○18	31○22	24●28	28●17
3	チュニジア	20●23	18●24		28○19	28○23	22○21
4	ノルウェー	25△25	22●31	19●28		30○29	20○14
5	スロベニア	30●33	28○24	23●28	29●30		35○22
6	サウジアラビア	18●29	17●28	21●22	14●20	22●35	

に全く良いところを出せないままの敗戦であり、このまま予選敗退してしまうのではと思われたが、強豪クロアチアとの戦いは、攻守共に相手をリードし5点差で下した。この勝利で息を吹き返し、一時はグループ3位となったが、最終日クロアチアが首位スペインを下したことにより勝ち点が並び、得失点差で下回ってしまいグループ4位での決勝トーナメント進出となった。

韓国の決勝トーナメントの対戦相手は、Dグループ1位のロシアであった。

ロシアは3ケ月前にシドニーで行われたオリンピックのチャンピオンであり、この大会でも優勝候補の一つとして挙げられているチームなので韓国としては苦戦を強いられると見られていた。しかし、スタートから韓国は献身的に攻め世界チャンピオンと互角以上の戦いを繰り広げた。結局、最後の最後で離されたが、この敗戦は若い韓国チームにとって自信になり、次に繋がる戦いだったと思われる。

そして優勝争いは、シドニーオリンピックチャンピオンのロシアがエジプトにまさかの敗戦を喫したのに続き同3位だったスペインまでも若いユーゴスラビアに押しまくられてしまい波瀾が続出した。結局ベスト4にはスウェーデ

第17回 世界男子ハンドボール選手権大会　決勝トーナメント勝敗表

チーム		1回戦 1/31(水)	準々決勝 2/1(木)	準決勝 2/3(土)	決勝 2/4(日)
スウェーデン	(A組1位)	32	34	25	25
アルゼンチン	(B組4位)	23			
クロアチア	(C組3位)	34			
ウクライナ	(D組2位)	37	20		
スペイン	(C組1位)	28	24		
ノルウェー	(D組4位)	23			
アイスランド	(A組3位)	27			
ユーゴスラビア	(B組2位)	31	26	24	
アルジェリア	(B組3位)	21			
エジプト	(A組2位)	24	21	21	
ロシア	(D組1位)	28	19		
韓　国	(C組4位)	26			
チュニジア	(D組3位)	24			
ドイツ	(C組2位)	26	23		
フランス	(B組1位)	23	26	24	28
ポルトガル	(A組4位)	18			

優勝　フランス

ン、ユーゴスラビア、エジプト、そして地元フランスが勝ち上がった。

セミファイナル1戦目は、スウェーデンとユーゴスラビアとの間で行われた。この試合は、ベテラン勢の多いスウェーデンと若返ったユーゴスラビアとの対象的な戦いであったが、一進一退が続き好ゲームが展開された。試合終了5秒前のスウェーデンの逆転シュートで勝負が決まりスウェーデンの3回連続の決勝進出となった。

続くセミファイナル2戦目は、エジプトと地元フランスとの戦いであった。

エジプトは準々決勝で優勝候補のロシアに競り勝って今回台風の目のような存在であり、ロシアに勝った勢いで優勝をも目論んでいたと思われる。一方のフランスは、準々決勝ではドイツにリードを許し苦しい展開であったが終了間際に追いつき延長戦で本来の動きを取り戻し接戦を勝ち抜いてきた。

試合は予想通りエジプトがリードしフランスが追う展開になった。ここでもフランスはじっと耐え逆転のチャンスを待ち、エジプトの主力がレッドカードによる出場停止を受けた機会に一気に逆襲に転じ3点差で1995年以来2度目の決勝進出を果たした。

そして21世紀最初のチャンピオンを争った決勝戦は、フランスが国民の大声援を受け、大接戦を演じここでも延長戦を制して2度目の世界タイトルを勝ち取った。

地元の世界選手権大会の優勝はここ何回かの大会では珍しく、サッカーのワールドカップ98年フランス大会でフランスが優勝したように地元開催のプレッシャーを自分たちのエネルギーに変えて優勝するところなど、フランス人のメンタル面での充実を評価したい。このことは、プレッシャーに弱い日本人にとって当面の大きな課題となっており、これを克服していかなければ日本のハンドボール界が再び世界に挑戦することは出来ないと思っているのでこれからの若い世代には、常日頃からこのことを意識させながら指導も行っていきたい。

次に新しい技術・戦術の面だが、シドニーオリンピックから3ケ月弱しか経過していないことが原因の一つとも思われるが、この大会も新しい技術面を見ることが出来なかった。しかし、ルール改正後のセンターラインのポイントを踏んでからのスローオフの場面では得点されればすぐにボールをセンターに運ぶチームも多く見られ、ますますスピード化が進んでいるように思えた。いずれにしても攻守ともに止まってプレーしている選手は、世界では通用しないと言っても過言ではなく、さらに今後の日本チームは、テンポの強弱などで常に動いてプレーするようなトレーニングが必要となってくる。

最後に、このような視察の機会を与えていただいた日本協会の関係各位にお礼を申し上げたい。

第9回JOCジュニアオリンピックカップ総括

財団法人日本ハンドボール協会　強化部長　**緒方　嗣雄**

今回で９回目を迎えたJOCジュニアオリンピックカップは、昨年に引き続き12月25日～27日までの３日間、大阪府堺市・家原大池体育館と市立金岡体育館で開催された。

各地区の予選を勝ち抜いた男女12チームがブロックの代表としてこの大会に参加してきた。開会式は、堺市長をはじめ多数の来賓参加のもと盛大に行われ、選手入場はブロックの代表として元気な入場更新でこの大会が始まった。

将来のオリンピック出場を目指した有望選手の発掘と育成を目的としてチーム編成は、県の選抜チームとして参加をし、チームワークという点では不安があるものの、より個性的な選手が代表選手となり、自己アピールできる唯一の大会である。

試合は、３チームを１ブロックとしてリーグ戦で行い、各ブロックの１位が決勝トーナメントに進む。一日２試合とハードな日程であるが実力伯仲の好ゲームの連続であった。

【男子の部】

Ａブロックは、沖縄選抜がずば抜けた力があり他のチームを寄せつけなかった。Ｂブロックは、奈良選抜と愛知選抜が競い合ったが奈良選抜が勝利を収めた。Ｃブロックは、実力伯仲の３チームであったが広島県が接戦の末、茨城県を破り代表となる。Ｄブロックは、地元大阪が実力を発揮しブロックの代表となる。決勝トーナメントには、沖縄・奈良・広島・大阪の４チームが進んだ。

第9回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会 試合結果

第1日目　2000／12／26

●予選リーグ男子（堺市金岡公園体育館）

Ａブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
埼玉県	37	18－ 9 19－10	19	北海道
沖縄県	24	7－ 6 17－ 8	14	埼玉県
沖縄県	46	18－10 28－ 6	16	北海道

Ｂブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
愛知県	24	12－10 12－10	20	岩手県
奈良県	29	15－ 8 14－11	19	岩手県
奈良県	31	14－11 17－14	25	愛知県

Ｃブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
香川県	21	10－11 11－ 7	18	茨城県
広島県	23	12－ 6 11－10	16	香川県
広島県	27	15－12 12－13	25	茨城県

Ｄブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
大阪府	25	11－ 6 14－14	20	三重県
三重県	23	5－12 18－10	22	長野県
大阪府	23	13－ 5 10－ 7	12	長野県

●予選リーグ女子（堺市家原大池体育館）

Ａブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
茨城県	20	7－ 3 13－ 3	6	北海道
大阪府	30	15－ 4 15－ 7	11	北海道
大阪府	15	7－ 7 8－ 7	14	茨城県

Ｂブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
香川県	18	7－ 1 11－ 4	5	岩手県
岐阜県	19	11－ 9 8－ 7	16	香川県
岐阜県	27	13－ 9 14－ 8	17	岩手県

Ｃブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
沖縄県	20	11－ 5 9－ 4	9	山口県
石川県	11	5－ 3 6－ 5	8	山口県
沖縄県	17	10－ 6 7－ 5	11	石川県

Ｄブロック

チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
兵庫県	23	13－16 10－ 5	21	愛知県
兵庫県	18	8－ 8 10－ 4	12	埼玉県
埼玉県	13	7－ 5 6－ 4	9	愛知県

●決勝トーナメント出場チーム

《男　子》
Ａブロック　沖縄県選抜
Ｂブロック　奈良県選抜
Ｃブロック　広島県選抜
Ｄブロック　大阪府選抜

《女　子》
Ａブロック　大阪府選抜
Ｂブロック　岐阜県選抜
Ｃブロック　沖縄県選抜
Ｄブロック　兵庫県選抜

【女子の部】

Ａブロックは、大阪選抜と茨城選抜の大接戦の末、大阪選抜が大応援団の力を受け、勝利を得てＡブロック代表となる。Ｂブロックは、実力者揃いの岐阜県が代表権を得る。Ｃブロックは、大型化してきた沖縄選抜が多彩な攻撃をみせ楽に決勝トーナメントへ進んだ。Ｄブロックは、兵庫選抜と愛知選抜の激戦の末、兵庫選抜が代表権を得た。各ブロックの代表は、大阪・岐阜・沖縄・兵庫の選抜チームが決勝トーナメントに進んだ。

男女共に白熱した試合が多く、特に女子の試合に激戦が続いた。

男子準決勝・決勝は、沖縄の独特のディフェンスそしてスピードある速攻と余裕のある試合運びをして初優勝を飾った。

女子準決勝、沖縄対兵庫は、前半は互角の試合展開であるが後半に入って一気に力を発揮した沖縄が決勝に。岐阜対大阪は大接戦の末、岐阜が決勝に進んだ。決勝戦は、パワフルで多彩な攻撃で沖縄の独壇場となり、男女共に強さを見せつけた沖縄の初優勝となった。

オリンピック有望選手には、常に攻撃の中心としてリーダーシップを発揮しスピード溢れるパワーでチームを引っ張った銘苅選手(沖縄)。女子では、ＧＫとして守りの要としてチームを勝利に導いた下地選手（沖縄）と多彩な攻撃を見せた細木選手（兵庫）が選ばれた。

最後になりましたが、連日会場に足を運んで下さった多数の観客、大会を運営頂きました大阪協会の役員、ボランティアで汗だくになった中学生・高校生の皆様には大変お世話になりありがとうございました。９年間大会を支援頂きました堺市関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

これからもこの大会が堺市で続きますようお願いして終わらせていただきます。

第9回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会 試合結果

第2日目　2000／12／27

●決勝トーナメント（堺市家原大池体育館）

【男　子】

	チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
準決勝	沖縄県	27	14－10 13－ 9	19	奈良県
〃	大阪府	23	9－ 8 14－11	19	広島県
決　勝	沖縄県	27	14－ 4 13－13	17	大阪府

【女　子】

	チーム	得点	前半 後半	得点	チーム
準決勝	岐阜県	16	7－ 9 9－ 4	13	大阪府
〃	沖縄県	25	9－ 8 16－ 5	13	兵庫県
決　勝	沖縄県	25	15－ 8 10－ 9	17	岐阜県

●順　　位

男　子		女　子	
優　勝	沖縄県選抜	優　勝	沖縄県選抜
準優勝	大阪府選抜	準優勝	岐阜県選抜
第三位	奈良県選抜	第三位	大阪府選抜
〃	広島県選抜	〃	兵庫県選抜

※男子の沖縄県選抜は初優勝
※女子の沖縄県選抜は初優勝

●表　彰　選　手

オリンピック有望選手	銘　苅　　淳（沖縄県港川中）	オリンピック有望選手	下　地　ゆいの（沖縄県仲西中） 細　木　久　未（兵庫県大蔵中）
最優秀選手	中　西　栄　進（奈良県五條中）	最優秀選手	下　地　ゆいの（沖縄県仲西中）
優秀選手　ＧＫ	沖　田　勇　輝（広島県甲田中）	優秀選手　ＧＫ	山　下　詩　穂（石川県南部中）
ＣＰ	立　花　直　之（岩手県松園中）	ＣＰ	松　本　亜里沙（愛知県伊勢山中）
〃	下　田　好　孝（広島県甲田中）	〃	細　木　久　未（兵庫県大蔵中）
〃	高　田　　匠（沖縄県仲西中）	〃	樋　谷　　茜（大阪府住吉一中）
〃	前　里　卓　実（沖縄県神森中）	〃	岡　崎　加奈子（岐阜県日枝中）
〃	野　崎　剛　史（大阪府大体大附中）	〃	大　城　夕　貴（沖縄県仲西中）
〃	安　藤　正　泰（大阪府佃中）	〃	東長濱　あいん（沖縄県浦西中）

世界学生選手権　観戦記

佐藤　和孝

筆者はこの冬ポルトガル旅行を企画していたが、偶然、その時期に世界学生選手権が開かれることが分かった。そこで、日程を決める際に、主会場となるコヴィリャンを訪れるように計画し、３日間で８試合を観戦することができた。その感想を簡単にまとめてみたい。

コヴィリャンはポルトガルの首都リスボンの北東、エストレラ山脈の入口に位置している。もう一つの主会場となったグアルダ市と並んでこの地域では大きな町だが、特別な観光地というわけではない。筆者も、この大会がなければ訪れることはなかったと思う。

まず、コヴィリャンに到着した１月２日、コヴィリャンのベイラ大学スポーツパビリオンで行なわれた日本対ルーマニア戦を観戦した。日本は４チームによる予選リーグAブロック３位で、順位決定リーグに入っており、ルーマニアに勝てば９・10位決定戦進出の可能性がある。立ち上がり好調で一時は点差を広げる勢いもあったが、パスやキャッチのミスによって自らペースを乱してしまった。結局、後半は完全にルーマニア・ペースのゲームを許す結果となり、最終的に24－28で敗れた。実に残念である。


優勝したハンガリー

続く準決勝リーグのユーゴスラビア対トルコ戦は、日本チーム帯同の家永・福島両審判員が担当した。世界大会は初めてという２人は、そんな素振りも見せない落ち着いたゲームのスタートだったが、途中から両チームの監督同士があわやつ摑み合いかという荒れた雰囲気のゲームになって、必死のゲーム管理となった。御苦労様。もっとも見ている方は、それなりに面白かったのだが……。その後、やはり準決勝リーグのハンガリー対台湾戦が行なわれたが、こちらは優勝候補のハンガリーが順当勝ち。

翌３日は日本チームの試合はなかったが、グアルダの市民体育館で行なわれた２試合を観戦した。１試合目のフランス対チュニジア戦はフランスが貫禄を見せて勝利。実は２試合目のポルトガル対ロシア戦がお目当てで、優勢と見られる長身のロシアに対して、ポルトガルが地元の利を活かせるかに注目した。立ち上がり互角の戦いから、徐々にロシアが長身を活かしてリードし始めるが、会場を埋めつ


U－23全日本選抜

くすポルトガルの応援がものすごく、ロシアの攻撃中ずっと続くブーイングでロシアがペースを乱し、ポルトガルが巻き返して終了５分前に逆転すると、そのまま１点差で逃げ切る感動的なゲームだった。ベンチのスタッフも会場に大きなジェスチャーで応援を求めるなど、その一体感も素晴らしいものだった。

最終日４日は、ベルモンテという小さな美しい町で行なわれた日本戦の応援に出かけた。中国との11・12位決定戦は、立ち上がり好調の日本が面白いように得点して一時はリードを８点まで広げ安泰かと思った。ところが、前半中盤から、またもやパス，キャッチ，ノーマークシュートのミスを連発し、自ら試合を苦しくして後半は中国にリードされる場面もあった。結局、最後は中国を２点差に押さえ込んで11位を確保したが、このあたりの試合運びの不安定さは、応援する方としては胃が痛くなる。何とかしてほしいものだ。



試合後、日本チームはコヴィリャンに戻ったが、筆者は残ってルーマニア対ブラジルの９・10位決定戦を観戦した。日本の家永・福島ペアがレフェリーだったからだ。今回も荒れ模様の試合で出血する選手が出た上、同点で延長に入ったために両チームがエキサイト。最後はルーマニアが１点差で逃げ切ったが、筆者は初めて警備に守られてシャワールームに戻るレフェリーを見た。

この後、コヴィリャンに戻って、ハンガリー対ポルトガルの決勝戦を観戦した。立ち上がりからハンガリーが優勢の試合展開で、ポルトガルがイラついたのか荒れ模様のゲームとなり、小競り合いで両チーム１名ずつの失格者を出した。前半は12－３、後半５分で14－３となった時点で、消化ゲームの凡戦かと思ったが、この日も会場を埋めつくす地元応援団の声援が凄く、後半途中から巻き返したポルトガルが終了直前の同点とする。必死で攻めるハンガリーがフリースローをとった時点でタイムアップ。延長かと思った瞬間、このノータイムフリースローがゴールインして、ハンガリーが優勝した。実にエキサイティングなゲームだった。

世界学生選手権は、国と国との戦いだが、世界選手権に出るナショナルほど完成された状態ではなく、粗削りで将来を感じさせる一方、精神的な崩れもみられる。また一つ違った楽しみがあると感じた。次回はブラジルで開催だそうだが、日本チームの活躍を期待したい。

なお、現地では日本チーム関係者の皆様に大変にお世話になりました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

〈東京大学附属中学校：教諭〉



【成　績】

12月29日（予選リーグ）

日　本	27	13－12 / 14－18	30	ユーゴスラビア

12月30日（予選リーグ）

日　本	35	19－ 7 / 16－10	17	アルジェリア

12月31日（予選リーグ）

日　本	20	9－13 / 11－12	25	ハンガリー

１月２日（順位決定）

日　本	24	15－14 / 9－13	27	ルーマニア

１月４日（11、12位決定）

日　本	27	13－ 7 / 14－18	25	中　国

最終順位：１位／ハンガリー　２位／ポルトガル　３位／ロシア　４位／ユーゴスラビア　５位／フランス　６位／トルコ　７位／チャイニーズタイペイ　８位／チュニジア　９位／ルーマニア　10位／ブラジル　**11位／日本**　12位／中華人民共和国　13位／アルジェリア

HANDBALL ALL STAR 2001

全日本U－23世界学生選手権帰国報告試合

平成13年1月21日(日)　水海道市民体育館
主催　(財)日本ハンドボール協会
主管　茨城県ハンドボール協会

全日本実業団選抜 VS 全日本U－23

全日本実業団選抜 28―18 全日本U―23

平成13年１月21日(日)、残雪の残る水海道市民体育館において全日本U―23と全日本実業団選抜の試合が行われた。この試合は12月から１月にかけてポルトガル(コビリャン)で開催された第16回男子世界学生ハンドボール選手権大会の報告試合である。

実業団選抜のスローオフでスタートした試合は、開始30秒に斉藤のミドルシュートで先取点を奪う。また、ポストの池辺がU―23柳本の警告を誘い、野村が７mスローを成功させて２点目を獲得した。それに対してU―23はフォーメーションから前田のミドルシュート。さらに、中谷のリバウンドシュートで得点をする。しかし、U―23はフォーメーションのスカイプレーの失敗や、逆速攻での戻り際に退場者を出すなど、開始10分で６対２と、実業団選抜が主導権を握る形で試合は始まった。

U―23が13分に宮崎、15分に作田と続けてミドルシュートで得点を奪ったためか、16分過ぎには実業団選抜がディフェンスの形態を６―０から３―２―１に変更した。U―23の攻撃に対する実業団選抜のディフェンスの動きは対応が速く、パワーも優る様子であり、U―23の攻撃はパス回しの初期の段階で中断されることが多くなっていった。そのため、実業団選抜がパス回しの中でのミスを誘うことに成功。辻、斉藤らの速攻による得点に結びつけることで、20分過ぎには10対５と点差を広げていった。

それに対してU―23は、小倉の速攻からのロングシュートや宮崎のミドルによる得点を奪うが、実業団選抜が松林、古家、阿部らのコンビネーションによるポストスカイを成功させ、前半を14対９の実業団選抜のリードで終了させた。

後半の立ち上がりは実業団選抜が中川から下川へのスカイプレーを試み、エリア内防御での７mスローを誘う。中川がゴール左下に得点。それに対してU―23は、２分過ぎにこぼれ球を宮崎がサイドからの得点に結びつけた。

しかし、実業団選抜の３―２―１ディフェンスは堅く、U―23は攻めあぐねる場面が再三見られた。その結果、下川らの速攻による５連続得点を許してしまうなど、後半開始８分までに20対10となった。また、９分には三陽商会同士のコンビプレイで田中から中川へのポストへのスカイパスの成功や下川の速攻からU―23の前田が退場、辻が７mスローを決めるなど、実業団選抜のリードが増していった。

11分には宮崎が１対１の状況をフェイントで突破、この試合６点目を決めるが、その直後１分間で、実業団選抜による下川のこの試合５点目となるカットインシュートと、速攻からの田中のサイドシュートでの得点。この時点で24対12となり、U―23はタイムアウトをとった。

タイムアウト後、U―23は内田のロング、カットインの連続得点や沢田のブラインドシュートの成功で勢いを取り戻すかに見えたが、実業団選抜は堅実なディフェンスとセットオフェンスでの阿部のサイドシュートなどで得点を重ねた。

結局、試合終了時には28対18と学生と実業団の力の差を感じさせる試合になったが、ポルトガルでの世界学生選手権を戦ったU―23の選手達、宮崎をはじめ沢田、柳本など、将来を期待させる選手達が健闘していた。

試合後の記者会見では、U―23の松監督らから、ポルトガルでの世界選手権の報告があり、フィジカルとメンタルの両面での強化の必要性が語られた。また、全日本の田口監督らからは、U―23の選手達を日本リーグ選手との合同合宿に参加させることで、ナショナルの強化活動の一環とする方針が語られた。

今回の試合ではハーフタイムショーとして、７mスローコンテスト大会が行われた。茨城県内の小中学生選手10名が代表選手を相手に７mスローを挑む姿は見ていても楽しいものである。特に小柄な小学生が大きなキーパーを相手に得点を狙う様子は、つめかけた会場のギャラリーを大いに沸かせていた。

スポーツ安全保険は
みんなの安心をお約束します。



スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動等に最適な保険です。

	加入区分	掛金	傷害保険（保険金額） 死亡	後遺障害	入院	通院	賠償責任保険（補償限度額）	共済見舞金
A	子供の 成人の スポーツ活動等 文化活動、ボランティア活動、地域活動	450円	2,000万円	最高 3,000万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,500円	身体賠償 1人 1億円 1事故5億円 （免責1,000円） 財物賠償 500万円 （免責1,000円）	突然死 140万円
B	老人の スポーツ活動	800円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		
C	成人の スポーツ活動	1,400円	2,000万円	3,000万円	4,000円	1,500円		
D	山岳登はん、アメリカンフットボールなど	9,000円	500万円	750万円	1,800円	1,000円		

対象となる事故 ―― ●グループ活動中の事故　●往復途中の事故
保険期間 ―― 平成13年4月1日から翌年3月31日まで（申込受付は3月から）

あいおい損保　朝日火災　共栄火災　住友海上
大成火災　大同火災　東京海上　日動火災
日産火災　日新火災　ニッセイ損保　日本興亜損保
富士火災　三井海上　安田火災

保険については東京海上を幹事会社として、上記損害保険会社15社との共同保険となっております。（2001年4月1日現在予定）

お問い合わせ

〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1　岸記念体育会館　TEL 03-3481-2431

財団法人 スポーツ安全協会

ホームページアドレス　http://www.sportsanzen.org

資料請求	FAX専用フリーダイヤル 0120-104442（自動受付）	「加入依頼書（都道府県別）」、「団体員名簿」、「あらまし」、「事故通知はがき」のご請求の際、①資料内容（前記印刷物名）②必要部数③送付先の住所④氏名⑤電話番号をお書きのうえ、左記FAX番号宛お送り下さい。 なお、発送には多少日数がかかる場合がありますので、ご了承ください。

ホームページ（http://www.sportsanzen.org）でも同様に受付しておりますので、ご利用下さい。

コーチ・ヘッドレフェリーシンポジウム2000
（ナブール・チュニジア）
その2

前号に引き続き「コーチ・ヘッドレフェリーシンポジウム2000」の報告を掲載いたします。

レフェリングの発展と安定に役立つ活動の合理化と体系化

ハッサン・ムスタファ（CCM委員長）
翻訳：岸本光夫

コーチングの分野や、競技に関わる集団を管理し組織化することには相当の成果が上がっている一方で、レフェリングには選手権大会ほか諸々の試合に決定的な影響を及ぼす要因が残っている。レフェリングはコーチや各委員長の反応を最終的に決定するのである。

プレイヤーやコーチ、役員、オーガナイザーのムードの良し悪しは、究極的には試合や選手権大会で主な「劇的活力」を管理できるかどうかといったレフェリングの技量によって大きく左右されるものである。

よって、ＩＨＦの各委員長はそれぞれの立場から、レフェリング方法も影響する様々な要因を変革し、向上させ、体系化していかなければならない。

引き続いて、以下に取り上げなければならない問題点を述べる。

1．試合中、レフェリーとコーチの間に発生する問題を解決する。
2．試合中、レフェリーの副任務を削減する。
3．先入観による判定を合理化する。
4．試合の直後とその後に、レフェリングの評価方法に見通しを立てる。
5．コーチやプレイヤー、役員と同様、レフェリーのプロ化について、国内システムと国際システムを構築する。
6．コーチとレフェリーを対象としたセミナーや講習会を体系化し、競技規則の統一見解に合意する。
7．レフェリング技術の向上と選手権大会の準備を目的として、ＣＣＭは綿密なトレーニング計画を立てる。
8．試合や選手権大会に先立ち、レフェリーとコーチの親善外交を企図して所定の議定書を作成する。
9．コーチとレフェリーの間で、定期的および臨時に講習会やセミナーを開催する。
10．競技規則の適用の実際的な見解を説明するため、大活躍しているレフェリーをレフェリー講習会に招く。
11．非常に高いレベルの試合をすぐに担当できるという特権を与えることにより、元国際ハンドボールプレイヤー出身のレフェリーの登用に重点を置く。
12．国際の選手権大会の後、特筆に値するレフェリーやコーチに光栄を授けることにより、レフェリングとコーチングを同等に評価する。

1．試合中、レフェリーとコーチの間に発生する問題を解決する。

解決しなければならない主な問題は以下のとおりである。

レフェリーの判定、特に先入観による判定に対する苦情。これはコーチとレフェリーの間に、競技規則の解釈に乖離があった場合に生じる。[解決方法]選手権大会前にコーチとレフェリーの競技規則に対する見解を統一しておくため、各選手権大会前に論議の的となる競技規則の解釈について説明した公報を刊行する。

プレイヤーや観衆の前でコーチが窮迫するに及んで、レフェリーとコーチが敵対すること。これは国家的理由、地域的偏見、あるいは勝負への過当な固執が原因となって生じる。[解決方法]いかなる悪影響も受けずに競技規則を遵守するため、レフェリーとコーチによる親善外交の議定書を作成する。この議定書は選手権大会や試合の根底をなすものとなるであろう。

レフェリーの判定が競技規則に反しているというコーチの訴え。[解決方法]通常の試合進行を妨げずに役員管理者がレフェリーに正しい任務を知らせた場合には、その指示された方法に従うことが重要である。

レフェリーが相手チームの肩をもっていると、コーチが思うこと。[解決方法]ＩＨＦは大陸や地域レベルにおいてレフェリーの中立性を考慮に入れなければならず、そして介入できる試合のオブザーバーに的確な教育を施さなくてはならない。

2. 試合中、レフェリーの副任務を削減する。

コートレフェリーは専らコート上のプレイやその結果に対する判定に集中しなければならず、時に相当な重荷になっている。さらに、それぞれの戦略に基づき両チームが大きな効果をねらってプレイヤーの動きが加速していく中、レフェリーはこれを裁いていく役割を担っているのである。ゲームのスピードに悪影響を及ぼすようなコートレフェリーの副任務を削減した方がよい理由はここにある。[解決方法] メモに記録しなければならないといった任務はオフィシャル席に任せるべきで、得点や警告、追放、不正交代なども同様である。計測時計のストップとスタートといった計時も移行すべき任務となるであろう。

3. 先入観による判定を合理化する。

ゴールエリアはすべての攻撃・防御活動ができない立入禁止区域であるため、レフェリーの判定に先入観が入り客観性を欠いてしまうのはやむを得ないであろう。その上、ゴールキーパーの前に壁を作るため、目の前やその周囲にプレイヤーが立ちはだかり、レフェリーの任務をより一層複雑なものにしている。7ｍスロー、レフェリーへのスポーツマンシップに反する行為、退場、失格など、このような一連の判定も忘れずに！ [解決方法] この類の状況における判定に際しては、根本的な問題について国際的規模でレフェリーとコーチが合意に達することが合理的である。

4. 試合の直後とその後に、レフェリングの評価方法に見通しを立てる。

レフェリーの評価は通常、勝負の行方による興奮や感情に左右されるものである。[解決方法]評価方法には次に挙げる２つの客観的な手段を用いるべきである：(1)試合直後の評価、(2)その後の評価

(1)試合直後の評価

試合中のレフェリングをオフィシャル席のノートパソコンで追跡するアプリケーションソフトを開発することは重要である。コンピューターは競技時間計測時計やスコアシートと同様、試合に必要な装備である。審判委員会はこのデータを保存し、レフェリー評価の統計に用いなければならない。

(2)その後の評価

試合の後には、ビデオ映像に基づいて行わなければならない。このような方法を取れば、この評価と直後に行っていた評価を比較することができる。当然ながら、あらゆる選手権大会において毎日実施されるミーティングで、すべての長所と短所を取りあげて検討しなければならない。すべての事例がまだ記憶に残っているうちに、選手権大会後速やかにこのような調査をしなければならない。

5. コーチやプレイヤー、役員と同様、レフェリーのプロ化について、国内システムと国際システムを構築する。

プレイヤーやコーチ、役員は、プロ化によって日々のトレーニングやトレーニングの強化に没頭することができる。もちろん、このプロ化は世界レベルでチーム力の向上に貢献してきた。しかし、我々が経験してきたとおりレフェリングはプレイヤーの対応や成果を左右するものであり、このレフェリングがハンドボールの発展に関する最終的な鍵を握っていることに気付かなければならない。にもかかわらず、未だレフェリーはアマチュアの身分であり、全身全霊を込めてレフェリングに打ち込むことができない。したがって、プロ級のレフェリングへの道はなお遠いのである。

プレイヤーやコーチは、自分の使命に専念できるよう面倒を見てくれるスポーツ団体やクラブ、協会と提携している。故に、レフェリーのプロ化を実現すべく、国内・国際の財政援助システムを採用している協会がいくつか実在するというのは、大切な事実なのである。これには、国内プロ契約システムと国際プロ契約システムの２つの方法が考えられる。

(1)国内プロ契約システム

レフェリーは皆、国際審判員証を持っている。これに伴い、自国の協会は雇用契約を結び、年俸を支払うべきである。レフェリーはレフェリングに専念し、レフェリングの研修会に参加しなければならない。

(2)国際プロ契約システム

前回の世界選手権大会を調査すると、ＩＨＦのＣＡＲは世界選手権大会とオリンピック競技会を担当するレフェリーとして数ペアを指名している。ＩＨＦは基本的な雇用契約を結んで年俸の半分を支給し、自国の協会が残額を支払うべきである。自国の協会に支払ってもらえないレフェリーは、すべて解雇すべきである。

6. コーチとレフェリーを対象としたセミナーや講習会を体系化し、競技規則の統一見解に合意する。

競技規則を各国語に翻訳すると、競技規則の解釈に相違が発生する。各国レベルで、同じく国際レベルでも競技規則の適用に違いが生じるのは当然の成行きである。[解決方法] 競技規則の解釈や適用について見解を統一するため、レフェリーとコーチを集めてセミナーや講習会を体系的に実施する。

7. レフェリング技術の向上と選手権大会の準備を目的として、ＣＣＭは綿密なトレーニング計画を立てる。

一般的に、誤ったレフェリングはプレイヤーの技術の促進に対してマイナスに作用する。主な選手権大会に指名されたレフェリーが技術的および体力的トレーニング計画を実施するよう、ＩＨＦのＣＣＭはＩＨＦのＣＡＲと協力するべきである。技術的側面と体力的側面の両方を考えに入れてトレーニングメニューを組まなければならない。

(1)技術的側面

両チームが一連のプレイを組織立てて攻防し、各レフェリーがこれを判定する。それぞれのプレイについてレフェリーは難しい局面をよく観察し、後でそのプレイに対する判定についてコーチやオブザーバーに評価を求める。

(2)体力的側面

ストレッチ運動に加え、持久力とスピードのトレーニングを実施し、さらにレフェリーにはトレーニングにおいて厳しい内容を課す。トレーニングは制限時間付きのテストと考えてよいであろう。

8. 試合や選手権大会に先立ち、レフェリーとコーチの親善外交を企図して所定の議定書を作成する。

それぞれの試合には、２つの基本的原理がある。すなわち、基本的な試合管理の実践、および人間関係の管理である。一般的に、レフェリーもコーチも試合を管理する一方で、それぞれに固有の任務を遂行している。試合の特質ともいうべき勝負への執着に基づく誇張表現や軋轢を完全になくすため、競合関係にあるセクション間の友好関係を強めることが大切である。

主役はコーチとレフェリーなのである。だから、各選手権大会前に、レフェリーとコーチの間で友好的な人間関係を築く旨を明記した議定書を交わすことを義務付けた方がよいであろう。この次第は、言葉の障壁を物ともしない分野で年季を入れた人にお願いしなければならない。

9. コーチとレフェリーの間で、定期的および臨時に講習会やセミナーを開催する。

シンポジウムや協議会を通してレフェリーとコーチの間に人間関係を築くという利点や国家的偏見をなくすというだけでなく、これは競技規則の適用に関する解釈を統一し、試合中の軋轢の緩和を目指す方策の第一歩となる。このようにして、ハンドボールの発展につなげていくのである。

10. 競技規則の適用の実際的な見解を説明するため、大活躍しているレフェリーをレフェリー講習会に招く。

すべての競技においても同様、競技規則の改正によっていくつかの問題点が生じてくる。国際試合でこのような問題に初めて直面するのはレフェリーなのである。技術的な進歩を披露し、該当する競技規則に関連した問題を解決するために、上記のようなレフェリー研修会に招き、実演と次の競技規則改正に対する的確な公式説明を行なってもらうのがよいであろう。

11. 非常に高いレベルの試合をすぐに担当できるという特権を与えることにより、元国際ハンドボールプレイヤー出身のレフェリーの登用に重点を置く。

いかなる状況をも予測できる技能を持つレフェリーは別格である。この技能があれば、その人はすでに素養を有し、適切な判定を下せるということである。ハンドボールプレイヤーであったならば、さらには豊かな国際経験を有するハンドボールプレイヤーであったならばなおのこと、レフェリーとしてこのような技能に一層恵まれていることになる。国内大会でデビューしたレフェリーに比べ、ナショナルレベルや国際レベルのプレイヤー出身のレフェリーは、より優れた予見能力を有しているであろう。

将来レフェリーを目指す国際プレイヤーを助成するためにも、国内レベルよりも高いレベルの試合をすぐに吹笛できるという特権を与えた方がよいであろう。

12. 国際の選手権大会の後、特筆に値するレフェリーやコーチに光栄を授けることにより、レフェリングとコーチングを同等に評価する。

国際大会の評価の枠組みにおいて、一般的に勝者は報償金を貰い、敗者は辛酸を舐めることになっている。コーチングとレフェリングのそれぞれの分野で進歩的な業績を促進するために、単なる結果は度外視してコーチやレフェリーを評価する尺度を作り上げた方がよいであろう。実際のところ、このような進歩的な業績は成功の枠内に組み入れるべきであろう。大会の勝利者と同じように、このようにして選ばれた人たちも報酬を受けるべきである。

平成13年第1回全国障害者スポーツ大会

「車椅子ハンドボール」の公開競技に向けて

―第11回全京都車いすハンドボール大会総評―

京都府ハンドボール協会副会長　小西　博喜

20世紀の最後を飾る「シドニーパラリンピック大会」の感動を受けて、第11回全京都車いすハンドボール大会（京都障害者スポーツ振興会、京都新聞社福祉事業団、京都日吉ヶ丘ライオンズクラブなど主催、京都府ハンドボール協会など後援）が昨年11月26日、京都市左京区の京都市障害者スポーツセンターで開催された。車いすハンドボールは、本年開催される宮城国体のあと、平成13年10月27、28、29日の3日間、公開競技として、グランディ・21宮城スタジアム（利府町）（開・閉会式・陸上競技、水泳、バレーボール、綱引き、車椅子ハンドボール、ボッチャ）において、第1回全国障害者スポーツ大会が実施されることに決定した。実施競技の個人競技として、陸上競技、水泳、卓球／盲人卓球、アーチェリー、ボウリング、フライングディスク、団体競技は車椅子バスケットボール、バスケットボール、グランドソフトボール、ソフトボール、バレーボール、サッカー、フットベースボール、公開競技として綱引き、車椅子ハンドボール、ボッチャの16種目が採用されることになった。

その意味で、会場は「車いすハンドボールのさらなる普及」にかける思いが広がった。

大会には、Ⅰ、Ⅱ部合わせて12チームが参加、今回は、京都チームのほかに福井県の小浜病院と宮城県のケヤッキーズが特別参加して注目を集めた。とくに宮城県の県木「ケヤキ」をモチーフにした、明るく親しみやすい「新世紀・みやぎ国体」と「翔く・新世紀みやぎ大会」の共通マスコット、ケヤッキーが出演し、会場の雰囲気を盛り上げた。

車いすハンドボールは、1988年に京都で開催された第24回全国身体障害者スポーツ大会を契機に、京都府ハンドボール協会の支援で京都で誕生した。この大会は、「障害のある人々のスポーツの日常化を図るとともに、車いすハンドボールの普及と障害者らの交流」を目的に、90年から毎年開催されている大会である。

競技は6人制。コートは、縦12メートル、横24メートルで、ゴールポストは高さ128センチ、横140～153センチ。ボールは直径16～18センチの柔らかいボールを使用する。ルールは、一部健常者を含んでもよい方式を採用。全員健常者の京都日吉ヶ丘ライオンズなどは、オープン参加となった。車いすハンドボールは、下ももや足でブレースすることは禁止されている。また、7人制ハンドボールと同様、敏捷性やストップターンが自在にでき、素早い連携プレーが要求される。パスワークやシュートのタイミングに変化をつけると、シュートの興味が増して、ゴール前の攻防にも迫力が感じられる。宮城から参加したⅠ部のケヤッキーズは、初戦でドリマーズ（宮津市）と対戦、善戦したが惜しくも10－13で敗退。ドリマーズは順調に勝ち進み、2年連続3度目の優勝を飾った。

宮城のケヤッキーズは、昨年初めにチームを結成した。宮城県障害者スポーツ協会の丹朝勝さんは、子どもの時に小児まひを患い、今も車いすの生活。月2回程度の練習でチームをまとめている。「車いすハンドボールは、シュートが決まった時が最高。今日は勝てなかったが、これからもっと練習して、来年の宮城での全国大会で頑張る」と語った。2年連続優勝を達成したドリマーズの山本新之介主将は、「今年も勝つぞ、という気持ちだったので嬉しい」と笑顔を見せていた。この大会は、障害者と健常者の交流にも重きをおいている。健常者でメンバーを組んだ京都日吉ヶ丘ライオンズクラブの橋本健一さんは、「これまで6回出場したが、車いすハンドボールは、スピーディーで面白い」とさわやかな汗を流していた。

京の地で発祥した車いすハンドボール。今回は福井、宮城両県の参加で活気を呈したが、本年は“翔く・新世紀みやぎ大会”に向けた全国都道府県障害者スポーツ協会と各都道府県ハンドボール協会のタイアップの協力体制が期待されているように思われる。

また、将来に夢をかけるパラリンピックに通ずる登竜門として、「五輪とパラリンピック共生」に向けた各都道府県ハンドボール協会のサポーター的役割と支援が問われる挑戦課題でもある。そのことが学校・家族ぐるみの高い社会的評価を得てジュニア育成への普及拡大につながる成果が期待できることは申すまでもない。

各都道府県ハンドボール協会の諸先輩・OB・現役各位の「出番」をお預かりする日本協会のゴングが鳴り響く日を1日も早く待ち望む次第である。



《成　績》

Ⅰ　部
- 第1位　ドリマーズチーム（宮津市）
- 第2位　ドルフィンチーム（亀岡市）
- 第3位　ハンドインハンドチーム（京都市）

Ⅱ　部
- 第1位　呉竹チーム（京都市）
- 第2位　よさのうみ養護学校チーム（野田川町）
- 第3位　サン・アビ城陽チーム（城陽市）

敢闘賞
- 個人・宮本和彦（呉竹）
- チーム・ケヤッキーズ（宮城県）、小浜病院（福井県）

東アジア競技大会の意義

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

先月号でも書いたが、その後の全日本総合選手権男子決勝でも残念な出来事があった。確かに勝負は１点差をめぐる壮絶な戦いだった。しかし、その裏に後味の悪さが残ったことは否めない。先月号で広島県協会の山本副理事長が総括の中で書かれているので詳しくは触れないが、とくに失格２はあまりにも情けないと言わざるを得ない。

観客をうならせ、将来を背負うであろう少年少女たちへの模範になるプレーを見せてもらいたい。最高のプレーをぶつけあってこそ日本のトップレベルにいる選手、チームと言えるのではなかろうか。醜いプレーこそ、ハンドボールを衰退させる一因にもなりかねないと思う。

さて５月20日から大阪で開かれる東アジア競技大会に初めて男女のハンドボールが加わった。21世紀、とりわけ2004アテネ五輪に復活をかける日本としては、格好の国際舞台である。

五輪出場を逃し、世界選手権出場も逃した男子にとっては、なにがなんでも復活の足掛かりにしたい大会である。しかも新世紀初のタイトルのかかった大会。ここに男子の総力を注ぐくらいの覚悟で臨んでほしいものである。

日本リーグにしても観客は増加どころか、むしろ減少傾向にあると言えるだろう。魅力に乏しい内容も一因かもしれないが、運営努力、選手が一体となって盛り上げを図っていかなければなるまい。先にも触れたように、そのためにもひた向きなプレー、感動を与えるプレーがまず何よりの良薬ではないだろうか。

世界から見れば東アジアは小さいかもしれないが、その世界へ飛び出すには、まずはアジアという地域を制することから始まる。また、アジアの仲間と交流することも、日本の地位向上に役立つだろうし、さらにはリーダーシップも握れるのではないだろうか。

さらには、この大会での結果次第では、マスコミの見方も当然ながら違ってくるだろう。それが2004年のアテネ五輪出場に向けての後押しにもなってくるはずだ。

日本のスポーツ界は今、女子マラソンに注目が集まっていると言ってもいいほどだ。Ｑちゃんこと高橋尚子選手に刺激されて「私だって負けないわよ」と次代の選手が目の色を変えている。世代交代が順調に進んでいる感じだ。

ハンドボール界もやはり次代の日本を背負う若い芽の刺激がもっと欲しい。そこでの厳しい競争がレベルアップにつながるからだ。切磋琢磨して、世界へ押し上げるエネルギーをいっそう燃やすことが大切である。その第一歩が東アジア競技大会での戦いぶりではなかろうか。ここで手応えをつかみ、さらなるステップアップへの足掛かりにしたいものである。若手に希望を与えるためにも、ここはひとつ踏ん張りどころである。

ANA

※貯めたマイルは、航空券に換えてからご利用ください。

ANA

ANA MILEAGE CLUB

012 345 6789

RICK LEDGER

PICK ME UP!

ENOUGH MILES!!

The MILEAGE of MILEAGES

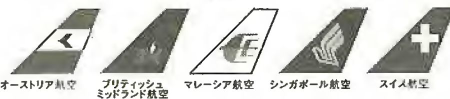
ネットワークがひろがって、マイルがさらに貯めやすく、使いやすくなりました。

今、全日空の空が大きく広がろうとしています。充実した国内線はもちろん、国際的な航空会社ネットワーク「スターアライアンス」への加盟により、国際線もさらに拡大。マイレージも、ぐっとワイドに貯まります。選ぶなら、やっぱり「ANAマイレージクラブ」。貯めやすさが断然ちがいます。

*スターアライアンス加盟の提携エアライン



*スターアライアンス以外の提携エアライン



ANAマイレージクラブ

10月31日 全日空は、スターアライアンスに加盟。世界112ヶ国以上、760以上の都市をネットワークで結びます。

小学生チーム活動特集 その3

前号に引き続き2つの小学生クラブの活動報告をご紹介いたします。

■玉名町小学校ハンドボール部（熊本県）

①団体名・指導者名

玉名町小学校ハンドボール部

土田幸生、栗山美加、宮本　大、井上香織

②団員数（平成12年12月現在　38名＝うち女子10名）

６年生：９名、５年生：15名、４年生：14名

③団体発足の経緯

平成元年に現宇土鶴城中学校監督の中野靖士先生が女子部を創部され、現在11年目を迎えています。創部した年に九州大会で優勝するなど華々しい活躍があった後、中野先生は転任され指導者不足、部員数の減少などの理由で女子部は消滅し、男子部が細々と活動していた状態でした。私が平成10年に転任したころは部員数も少なく、「何とか１勝を」という気持ちで始めたのを覚えています。また平成11年には女子の入部者が増え、女子部が復活し現在に至っています。

④指導にあたって特に留意されている事項

玉名町小学校ハンドボール部は学校部活動として活動しています。したがって練習時間等規制されることが多く、効率的に練習計画を組むことを必要とされています。また学校の体育館が狭く（半面もとれない状況）他の部活動との兼ね合いもあるため、運動場での練習が主になり、どうしても天候や気温等に左右されやすいため、計画的且つ効率的な練習をする理由のひとつです。

子どもたちにはハンドボールを通じて「立派な人間になろう」を合言葉に活動をしています。ハンドボールの技術向上だけでなく、友達のことを思いやる心、学業の推進、礼儀作法の大切さなど人間教育を中心に据えて指導しているところです。また４年生からしか入部できないため、４年生にはボールを投げる楽しさやシュートする喜びなどを中心に、５、６年生にはハンドボールの特性に触れさせるとともに、自分主体のプレーから友達を使うプレーや自己判断力を養うための練習を行っています。

⑤地域社会・学校との連携のかかわり方について

玉名町小学校ハンドボール部はこれまで全国４位、西日本交流大会優勝、九州大会優勝１回、準優勝１回、３位１回という成績を残してきました。しかし悩みもたくさんかかえています。

(1)部員数の確保です。学校は全児童800人の大規模校なのですが、校内の部活動数も多く、子どもたちがサッカーやバスケットボールなどのメジャースポーツに流れてしまいます。また野球、バレー、バドミントンなど地域のスポーツ少年団もたくさんあり、いかに子どもたちをハンドボールに引き入れていくかが大きな課題であります。

(2)近くに小学校にハンドボール部がないことです。玉名という地域があまりハンドボールに対してなじみがなく、玉名郡市の中にハンド部があるのが玉名町小だけという状況なので練習試合も遠くに行かなければなりません。また中学校にハンドボール部がないのも悩みです。目の前でレベルの高いプレーを見る機会が少ないことは子どもたちのプレーや意識の向上において非常にマイナスです。また小、中、高と縦のつながりがないため連携がとりにくいのも事実です。これは玉名町小学校だけの問題ではなく熊本県全体の問題でもあるようです。

しかしこのような不利な点を補ってくれているのが後援会の方々であり、卒業したＯＢの子どもたちです。練習試合の時に子どもたちを輸送していただいたり、試合前、体育館を借りてくださったりと非常に協力的で感謝しています。またお父さんたちの応援や協力が多いのも頼もしい限りです。また卒業したＯＢの子どもたちも中学校の部活の合間に練習に来てくれています。自分の休みの日を犠牲にしてまでも練習の相手になってくれている中学生を見ると、胸をうつものがあります。

⑥ある日の練習メニュー

(1)ランニング（５分）
(2)体操・ストレッチ（５分）
(3)ダッシュ・フットワーク（10分）
(4)ボールコントロール（５分）
(5)キャッチボール（５分）
(6)パス練習（10分）
(7)シュート練習（15分）
(8)速攻練習（10分）
(9)１対１、２対２（10分）
(10)３対２、３対３（10分）
(11)ミニゲーム（20分）
(12)ランニング（５分）
(13)体操（５分）
(14)ミーティング（５分）
(15)後片づけ
(16)帰宅

⑦その他、今後の目標

今年の全国大会で４位、九州大会で３位という好成績を残すことができました。しかし両大会では沖縄勢にことごとく敗れ、まざまざと力の差を見せつけられました。いかにして沖縄に対抗できる力をつけるかがこれからのチームの課題であり目標でもあります。現４、５年生と一緒に来年の全国大会に出場できるように、一つ一つの練習に目標を持って励んでいきたいと思います。

また ここでハンドボールに関わった子どもたちが、将来指導者になって帰ってきてくれればこれに勝る幸せはありません。一人でも多くそんな子どもが育つようこれからも指導していきたいと思います。

■当山小学校ハンドボール部（沖縄県）

①団体名・指導者

当山小学校ハンドボール部

監督：高良政幸、コーチ：比嘉邦浩

②部員数（学年別）平成13年1月23日現在

（男子）6年生2名、5年生10名、4年生4名、3年生2名、

（女子）6年生9名、5年生5名、4年生2名、3年生5名、2年生2名

③創部からの経緯

昭和62年5月に、当時当山小学校に赴任してこられた嵩原一子先生が5・6年生を中心にハンドボール部を結成し、現在14年目を迎えています。当時は、沖縄県で海邦国体が開催される前年であり、ハンドボール競技主会場となる浦添市も国体に向けて市民が一体となっている時期でもありました。父母にとっては、ハンドボールは見たこともない競技であったそうですが、子ども達と指導者が毎日一生懸命練習している姿に、2～3年もすると父母会が結成され、子ども達の激励会や大会の時の応援にも迫力が出るようになったそうです。創部の時の子ども達の弟や妹が次々にハンドボールを始め、父母のハンドボールの試合を見る目も年と共に鋭くなったと言われています。今では、試合の時には2階席から「速攻だー！」、「フットワークをしっかり！」の応援の声が聞こえるのも当たり前のようになりました。

その後、父母の東長濱秀吉さんが4年間の監督を引き継がれ、ハンドボール部の存続に力を尽くして下さいました。昨年の全国大会で男子チームが優勝できる礎を築いて下さったのも東長濱さんでした。

現在、私がチームを引き継いでから3年目となりますが、集まってくる子ども達の素直さと一生懸命さ、父母のご理解と物心両面にわたるご協力、そして地域の当山小学校のハンドボール部活動に対する励ましはとてもありがたいものです。

地域と父母と学校の理解と協力があって、当山小学校はこれまでに、全国大会において男子が3回の優勝、女子が3位、九州大会において男子が3回の優勝、女子が準優勝2回、3位が1回と素晴らしい成績を残してきました。

④指導にあたって特に留意していること

小学校にあっては、ハンドボールをすることは学校の教育活動の一端であると子ども達には言い聞かせています。だから、学校や学級の仕事があればそれを優先していくこと、練習時間のせめて半分でも家で勉強することがハンドボールを続けていく上での約束になっています。

練習においては、「グラウンドに立ったときから始まっている。」ので、終了するまで集中するように口をすっぱく言っています。スポーツを続けることの意義は時間のけじめと取り組む態度が大切なのだと特に力を入れ指導をしています。



練習の内容については、ボールを使った動きをすることを心がけています。ボールの扱いに慣れることと、楽しんでプレーに集中できるようにとの考えからです。そして、一人一人が全力で走り、跳び、投げることを通してお互いを理解し合い、お互いのプレーのつながりに発展していくのだと期待しています。「守りはGKを含めた7名の気持ちの一致、攻撃は一人一人の前へいく気持ちのつながりである」という言葉が指導していく上での信条です。

⑤ある日の練習メニュー

時　刻	時　間	練　習　内　容	留　意　点
16：00	5分	ランニング（コート6周）	4周目からスピードUP
	10分	体操・ストレッチ・柔軟	
	5分	ドリブルリレー（左右の手一人2回）	異学年で5チーム競争
	10分	対人パス（ジャンプ・ラテラル含）	3m～35mまで離れる
16：30	20分	二人の乱パスからシュート（左右）（コートの右側往復、左側往復）	左右各8～10往復 途中ディフェンス一人
16：50	10分	休憩	
17：00	20分	6つのポジションに分かれてポジションシュート	1つのポジションで3点入れたら他のポジション
17：20	15分	6対6の攻防 低学年は1対1フェイント練習	
17：40	20分	高・低学年同士の10分ゲーム	
18：00	10分	体操・ミーティング・片づけ	

⑥他の指導者への助言など

浦添市はハンドボールの盛んな町です。その中にあっても、当山小学校は卒業生が全員一つの中学へ進学していくつながりの良い環境にあります。お兄さん、お姉さんの活躍はそのまま子ども達への好影響となり、「卒業したらあのようになりたい」と慕う存在へとつながっています。その先輩達が小学校にも顔を出し、小学生に混じって一緒に練習してくれるので子ども達への刺激にもなっています。

父母同士も、一つの小学校から一つの中学へ進むので、がっちりとまとまることができ、素晴らしい父母会活動をすすめてくれています。

近隣の何校かがチームを持ち続けていると、浦添市のようなハンドボールの町づくりへとつながっていくだろうと思います。全国にそういった町が多く生まれると素晴らしいなと思います。

⑦その他、今後の目標など

県内にもっとチームを持つ学校（現在11校）が増えてくれたらと思います。より多くの子ども達とハンドボールを通して子ども達が交流できたらと期待しています。

「一つのプレーを一人一人が全力で」を合言葉に、これからも練習に励んでいきたいです。大会は、練習の発表会として捉え、毎回充実した発表会になれるように子ども達と共に頑張りたいと思います。

連載10

U－16選考及びNTSセンタートレーニング実施について（報告）

佐藤壮一郎（大同工大）

1．実施日・場所
　平成13年1月13日(土)～14日(日)
　男子：大同特殊鋼体育館及び大同工業大学体育館
　女子：ブラザー工業体育館
2．対象者：表を参照
3．指導スタッフ：表を参照
4．実施内容と感想

(1)センタートレーニングについて

今回のトレーニングでは、コーディネーション能力向上、MAN-MANテクニック習得(基本の5つのパターン)、常にゴールを狙う中での（2対2、3対3）戦術理解を指導ポイントとして実施した。

コーディネーショントレーニングについては、さすがに各ブロックの代表であり、簡単なアドバイスだけでそつなく行っていた。今後は、互いに競わせプレッシャーのかかった状態で正確かつ速く出来るようにすることが、将来国際試合において、パス・キャッチミスの減少につながるはずである。

MAN-MANトレーニングについては、基本の5つのパターンを動作的には習得しているがオーバーステップが多かった。国際大会でナショナルチームが負ける要因の1つなので、この時期に正確なステップを理解させ反復練習をして身体に染み込ませることが重要である。

2対2、3対3については、個人差がはっきりしており、指導者が戦術を理解し、各ブロックに持ち帰り普及させることが底辺の底上げと考える。以上を踏まえるとNTSの早急な定着が必要不可欠であることを再認識させられた。

(2)U－16選考ゲーム

初日の選考ゲームでは、U－16に選ばれたというモチベーションの高さから、シュートを決めることでアピールしようと確率の悪い単発シュートが目立った。しかし、2日目は、3号ボール（男子のみ）にもなれ、また、ゲーム前に良い選手とはどのような選手か具体的な説明があり、前日行われたトレーニング（2対2、3対3）でのプレーが随所に見られ今後の成長に期待が膨らんだ。

また、選考基準の具体的な提示も今後必要であろう。

U－16選考会&NTSセンタートレーニングのコーチングスタッフ

男子

	氏　名	NTS役職	ナショナルチームでの経歴	現所属
U－16監督	佐々木英明	NTS近畿担当委員	U－16監督	奈良県上中学
U－16コーチ	逢坂静男		U－16コーチ	大体大附中学
NTS運営委員会副委員長	東根明人	NTS東北担当委員	元ジュニアナショナルコーチ	順天堂大学
NTS運営委員会	高村誠一	NTS東海コーディネーター	オリンピック代表選手	大同特殊鋼総監督
NTS運営委員会	末岡政広	NTS北海道インストラクター	世界選手権代表選手	大同特殊鋼監督
NTS運営委員会	佐藤壮一郎	NTS四国インストラクター	世界選手権代表選手	大同工業大学監督
NTS運営委員会	山村敏之	NTS近畿インストラクター	オリンピック代表選手	本田技研総監督
現役全日本選手	佐々木教裕		世界選手権代表選手	本田技研
現役全日本選手	阿部展行		現役全日本選手	本田技研
現役全日本選手	冨本栄治		世界選手権代表選手	大同特殊鋼
現役全日本選手	市原剛次		東アジア選手権代表選手	大同特殊鋼
現役全日本選手	荻田圭		東アジア選手権代表選手	大同特殊鋼

女子

	氏　名	NTS役職	ナショナルチームでの経歴	現所属
U－16監督	高野郁代		U－16監督	福井県明倫中学
U－16コーチ	石塚廣一		U－16コーチ	埼玉県吉川中学
NTS運営委員会委員長	蒲生晴明	NTS北海道担当委員	オリンピック代表選手・元全日本監督	中部大学監督
NTS運営委員会	志賀良弘	NTS東北コーディネーター	オリンピック代表選手・元ジュニアコーチ	日立栃木コーチ
NTS運営委員会	三輪澄高	NTS東海インストラクター	世界選手権代表選手	トヨタ自動車監督
NTS運営委員会	岡部哲也	NTS東海インストラクター		トヨタ車体監督
現役全日本選手	藤井孝志		世界選手権代表選手	大同特殊鋼
現役全日本選手	日原一幸		アジア大会代表選手	大同特殊鋼
現役全日本選手	松林克明		世界学生選手権大会代表選手	大同特殊鋼

⑶VTR指導、栄養水分補給などのミーティング

ハードなスケジュールでの夜のミーティングにもかかわらず、また学級崩壊など騒がれる世の中において選手の聞く・見る態度は非常に好感が持て、ハンドボール（スポーツ）を通じて子供達が夢（目標）を持っているから自然に学ぶ姿勢になると感じられた。今後、さらに夢・目標の持てるやりがいのあるNTSの仕組みをつくることがハンドボール指導者全員の使命ではなかろうか。

⑷最後に

最後に、NTSセンタートレーニング開催にあたり、通知連絡等の不備があり、皆様に御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。NTS構築について、スムースなシステムとして運営管理できるように努力してまいりますので、益々のご理解・ご協力・ご支援をいただきますようお願いいたします。

U－16選考＆NTSセンタートレーニング出席者名簿

種別：中学生（男子）

	県名	氏名	指導者	所属
北海道	北海道	川本貫司	中村英彦	宇賀の浦中学校
東北	山形	間宮英之	間宮健一	尾花沢中学校
	福島	圓谷陽	本田隆	石川中学校
関東	茨城	小川雄也		けやき台中学校
	〃	宮崎修	坂本和久	水海道西中学校
	〃	信太富樹雄	出頭秀彦	麻生中学校
	埼玉	永田真也		戸田中学校
	千葉	鈴木康也		市川一中学校
北信越	富山	石戸貴幸		北部中学校
	〃	西山武司		氷見北部中学校
	石川	川場康弘	上裕喜夫	板津中学校
東海	愛知	佐藤智仁		笹島中学校
	〃	石ケ守祐		大塚中学校
	〃	丹波純一郎		中部中学校
	〃	青井雄介		〃
	三重	原貴之		大安中学校
近畿	大阪	岩根隼人	逢坂静男	大体大附属中学校
	〃	野崎剛史	〃	〃
	〃	安藤正泰		佃中学校
	奈良	中西栄進	上西秀樹	五条中学校
	奈良	木村雅俊	中井一郎	三郷中学校
	和歌山	橋本秀之	鎌田延子	那賀中学校
中国	広島	沖田勇輝	藤田拡	甲田中学校
	〃	下田好孝	〃	〃
	〃	坂本伸博	〃	〃
	〃	橋田智博	松浦将志	二河中学校
	山口	杉村和哉	河村康男	岐陽中学校
四国	香川	森末雄人	高木優明	勝賀中学校
	〃	東貴亮	〃	〃
九州	熊本	田平将平	松本政之	都呂々中学校
	〃	吉野清和	〃	〃
	大分	高橋慎也		原川中学校
	〃	田中宗治	上杉洋一	稙田中学校
	鹿児島	内杉雄治		国分中学校
	沖縄	前里卓実		神森中学校
	〃	比嘉龍太		仲西中学校
	〃	高田匠		〃
	〃	友利彬彦		〃
	〃	銘苅淳	東江正作	港川中学校

種別：中学生（女子）

	県名	氏名	指導者	所属
北海道	北海道	千田彩	安福慎太郎	臼尻中学校
関東	茨城	稲吉志穂理	蛯原高司	水海道中学校
	埼玉	山崎友香	石塚廣一	吉川中央中学校
	千葉	海保貴子	八重盛公英	市川一中学校
	〃	須賀美幸	〃	〃
	〃	佐々木彩	柴田雄二	東邦中学校
	〃	花井ゆう美	〃	〃
北信越	石川	吉田佳菜	中村明裕	南部中学校
	〃	川上茜	〃	〃
	〃	山下詩穂	〃	〃
	〃	横嶋かおる		堀川中学校
	福井	横井美季	高野郁代	明倫中学校
	〃	坪田悠里	〃	〃
	〃	石立真悠子	〃	〃
	〃	三好早紀	〃	〃
	〃	臼井さや香	〃	〃
東海	愛知	加藤沙織	木下由美	宮中学校
	〃	片山菜津江	〃	〃
	岐阜	岡崎加奈子		日枝中学校
	岐阜	萱垣美穂		中山中学校
近畿	大阪	樋谷茜		住吉第一中学校
	〃	藤井久美		〃
	〃	宮本倸子	杉田学	上野芝中学校
	兵庫	細木久末	竹内きよ子	大蔵中学校
	〃	坂部智子	〃	〃
	奈良	小野淳美	吉迫隆志	上中学校
中国	岡山	石川圭奈	寺尾智明	総社西中学校
	山口	田中美喜	谷村直美	住吉中学校
	〃	新宮友美	〃	〃
四国	香川	高木美央	多田宣行	香川第一中学校
九州	福岡	友貞佑佳里		甘木中学校
	大分	藤沢奈妙	長尾明徳	原川中学校
	熊本	島崎愛弓	中野雄士	宇土鶴城中学校
	〃	那須志穂	〃	〃
	沖縄	下地ゆいの	新川先生	仲西中学校
	〃	儀間千華子	〃	〃
	〃	東長嶺あいん	〃	浦西中学校

医科学委員会報告

ナショナル選手の競技力向上を求めた研究
=ハンドボール選手に必要なフィットネス=

医・科学委員長　西山　逸成

ハンドボール競技選手の競技力向上のため、現実的な強化課題の第一に「体力の向上」を挙げないチーム指導者は皆無である。

その体力づくりの必要性の認識に立ってハンドボール競技界は、1960年以降、今日までの40年間ナショナル男子・女子の選手に対して体力測定にもとづく運動処方、ならびにヘルスチェック・メディカルチェックにもとづくコンディショニングを継続実施してきた。

実施の都度、体力水準の飛躍的向上やスポーツ傷害（障害・外傷）の処置や万全の予防策の必要性が望まれてきた。しかしながらこの40年間の課題の抜本的な改善策はレール上は未だ設定されていない。韓国がソウルオリンピック対策の一つに挙げた体力水準（背筋力は体重の３倍等）で、はじめて斯界が活目した世界を制した“韓国スタイルハンドボール”が生まれてきたことを我々は忘れてしまい、技術水準の追求のみに目を奪われてしまったのだろうか？

ナショナル男・女関係のスタッフは異口同音に“体力つくりもやってます！”しかしナショナル選手活動は年間100～120日程度に過ぎないので、各チームにおける体力づくりや障害・外傷の医療ケアーがなされなければなるまい。

そこに指導者の資質の必要性と、そしてフィットネス（Fitness）の向上努力の至適年齢が現在のナショナル水準よりもむしろジュニア男・女の年代で実行すべきである、との思考からNTS（ナショナルトレーニングシステム）が日本ハンドボール界全機能態勢下でスタートしたことで、少なくとも中期的展望から期待したいところである。

以上の現状に少しでも寄与できればとの願望から、医科学研究委員会は、JOCプロジェクト「フィットネスチェック検討事業」と連携しハンドボール競技場面で適応できるFitnessとしての高いスピード・筋力・調整力が全試合場面を通じて終始、必要水準を低下させることなく持続・発揮するためには、どのような測定項目を見い出せばよいか？そしてそのフィットネスをどのようにいかなる水準まで向上していけばよいか？　という示唆を求め、その“間欠的能力の測定方法と測定項目”の研究を実施したのでその概要を本編で報告することにした。

また、さらなる第２編として、競技中における防御場面から、防御パフォーマンスの成否を握るであろう防御姿勢と構成する関節角度（股・膝・足首）とフィットネスとの関係を追究する見地から長期間ナショナル男子チームの防御の要として活躍してきたT・Y選手の60分間にわたる画像分析を試みたのでその概要を報告する。

今後の医・科学研究分野の課題の根底には、アテネ・オリンピック大会への参加資格の取得に正面から取り組み、フィットネスとメディカルサポートの２面から献身的努力が望まれよう。

試合中の防御選手の下腿関節角度の変化

西山哲成、田口　隆、酒巻清治、田中　茂、
首藤信一、寺嶋正章、田中　努、西山逸成

優れた選手であってもゲーム後半には疲労のために何らかのパフォーマンスが低下するだろう。これらは「防御選手の脚が止まってくる、足腰が立ってくる」または「攻撃選手がゴールに向かって攻めなくなる、フェイントが切れなくなる」等と様々に表現され、目に見える現象として現れる。我々はこの様な疲労による何らかのパフォーマンスの低下が試合の何分目に現れるか？をデータ化したいと考えている。また、本研究はナショナル男子監督田口氏および諸スタッフとの対話にも発している。要約すると「試合後半では疲れにより個人のディフェンス力が落ちてくる。疲れてくると防御選手の足腰が立ってこないか。その現象をデータ化し、選手に提示したい。体力向上に向かう動機付けにもなるだろう」であった。本稿では、ゲーム中の防御選手が「構えの姿勢」にある時の足、膝、股関節の経時的な角度変化について試験的研究を実施したので報告する。

ナショナル男子の２試合（日本リーグ選抜およびチェコ戦、2000．7／29.30　於広島）中にコートの両サイドに４台のビデオカメラを置き、センター付近の防御選手を撮影した。カメラレンズの高さは対象選手達の腰レベルに固定し、同選手達が常に画額に収まる様にカメラアングルを横方向にのみ適時動かした。「構えの姿勢」は対象選手がシューターに対し前に詰める、ブロックする、ポストを追う等の防御行動を起こす直前の姿勢と定義した。さらにこれらの角度計測の精度を保つために抽出場面は、同選手の身体が静止していること、身体がカメラに対しほぼ垂直位にあること、両足がフロアについていることとした。また攻撃側の単なるボール回しの場面や他選手によって対象選手の計測部位が隠れる場合は分析から除いた。分析の段階では抽出された静止場面を印刷し、解剖学的測定点に基づいて各体分節上に直線を描き、足、膝、股関節の角度を分度器を用いて計測した。

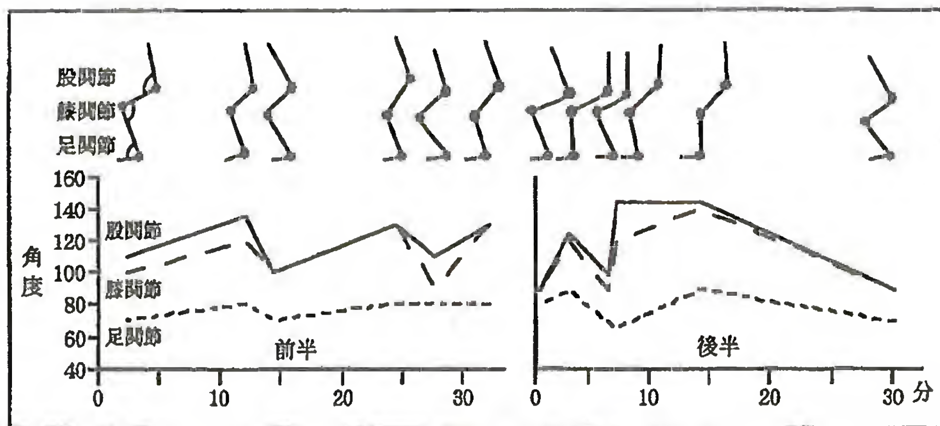


図1　ゲーム中の防御選手の下腿3関節角度の変化

フル出場したセンター防御選手1名についての分析例を**図1**（線画（上段）と折れ線グラフ（下段））に示す。得られた所見は以下の通りである。①前後半を通して足関節の角度はあまり変化しなかったが、膝および股関節角度は大きく変動した。②ある一つの関節角度が大きいときは他の二つの関節角度も大きくなり、逆にある一つの関節角度が小さいときには他の二つの関節角度も小さくなることが認められ、各関節角度は同様に変動する傾向を認めた。③後半5—15分頃の膝および股関節角度が前半に比べて大きくなったようにみえた。

本研究の目的に最も合致する所見は上述③の角度の経時変化についてであるが、抽出された場面が極めて少ないために(この例では12場面)、現時点ではこの現象の解釈は難しい。その一方、同ビデオ映像の観察からは同選手の“足腰が試合後半に立ってくる”ことが認識できるので、角度データを連続的に記録するなど研究方法の改善により本テーマ発展の余地はある。

本研究では、記録や分析処理には時間をかけず比較的容易に記録・表示できる方法を優先させた。しかしながら、試合中の疲労やパフォーマンス低下をデータ化するためには、もう少し高精度の記録方法を用いる必要がある。

フィットネスチェック項目検討プロジェクト

「ハンドボール競技選手のフィットネス」

市村志朗（東京医大）、松井幸嗣・斉藤慎太郎（日体大）、田村耕一郎（筑波大）、松喜美夫（函館大）、田村修治（東海大）、西山哲成（愛知医大）、竹内正雄・竹ノ谷文子（星薬大）、江明冷（早大）、坂本静男（順天堂浦安病院）、千葉裕典・西山逸成（順天堂大・公衛）

序　論

ハンドボール競技においては場面に応じて高いスピード、パワー、筋力、調整力が必要とされ1ゲームを通じてその能力を落とすことなく発揮することが必要となる。Cuesta 1）は、スペイン代表ゲーム中の心拍数は、170〜190拍の間で推移し、血中乳酸濃度は9mmol以上にもなると報告している。このことから、ハンドボール競技の特徴として、ゲーム中の攻防時には無酸素的な激しい動きと有酸素的な緩やかな動きが混在し、その中で、ジャンプやスローといった動作を伴う。したがって、比較的動きが緩やかになる場面での素早い回復能力が要求される2）。

我々は、1998年度女子代表チームにおいて、20m−40m−20m走×10回の各走行タイムと最大酸素摂取量、30m走、1500m走、最大無酸素パワーとの関係を調査した。その結果、反復回数5回目までは、30m走と高い相関関係が見られ、非乳酸系エネルギー機構の関与が大きく、6回目以降には体重あたりの最大酸素摂取量との間に高い相関関係がみられたと報告した3）。しかし、この報告では、ハンドボール競技特性で最重要と考えられる乳酸系エネルギー機構と20−40−20m走との関係は十分に報告されていない。

そこで、本研究では、間欠的な20m−40m−20m走がハンドボール選手の間欠的能力を測定する指標として用いることができるかどうかを調査し、ハンドボール競技特性として必要な間欠的能力（特に乳酸系エネルギー機構）を明らかにすることを目的とした。

方　法

今回は実験室的測定とフィールドテスト測定を行った。被検者はU−19及びU−23男子日本代表選手11名で、被検者の年齢、身長、体重はそれぞれ20.0±0.85歳、178.3±7.74cm、78.0±10.05kgであった。

実験室的測定

有酸素性測定として、被検者全員にトレッドミルオールアウト走を行わせ、その際に最大酸素摂取量と血中乳酸素濃度測定を行った。また、間欠的能力測定として、7名の被検者に体重の7.5%の負荷での5秒間最大努力自転車ペダリング運動を20秒間のインターバルで連続10回行わせ、最大パワー、平均パワー、最小パワー及びパワー低下率と全試行終了直後、3分後、5分後に血中乳酸濃度を測定した。

フィールド測定

全被検者を対象に無酸素的能力測定として30m走の走行タイムを測定した。間欠的能力測定としては、20m−40m−20m走を45秒間インターバルで連続10回行わせ、その際の走行タイム、2、4、6、8、10試行直後と全試行終了1、3、5分後に血中乳酸濃度を測定した。

数値はすべて平均値±標準偏差で表示し、最大努力自転車ペダリング運動のパワー出力の各試行間での比較と20m−40m−20m走時の走行timeの各試行間の比較は分散分析をおこない、各測定項目での値の相関はピアソンの積率相

表1　トレッドミルオールアウト走時の最大酸素摂取量と最大血中乳酸濃度

name	最大酸素摂取量/体重 (ml/min/kg)	最大血中乳酸濃度 (mmol)
豊 田 賢 治	52．4	10．7
沢 田 俊 祐	49．6	11．2
内 田 雄 二	45．8	10．6
作 田 幸 治	49．9	10．4
太 田 芳 文	47．6	9．3
柳 本 義 文	54．5	10．6
前 田 誠 一	53．1	8．3
田 平 龍太郎	43．8	7．4
宮 崎 大 輔	56．1	10．0
比 嘉 律	54．3	6．4
猪 妻 正 活	51．0	13．0
平 均	50．74	9．81
標準偏差	3．85	1．86

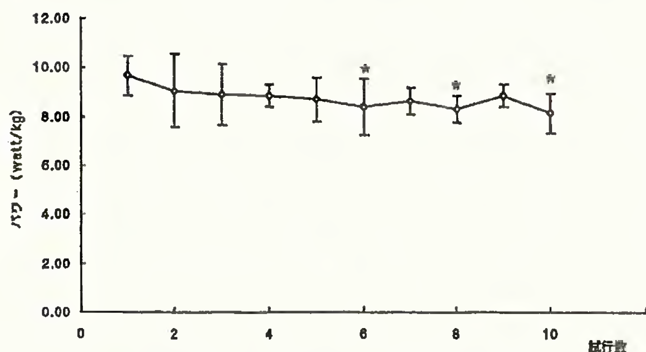


図1　5秒間最大努力自転車ペダリング運動時の体重あたりのパワー出力推移　*：p<0.05

表2　5秒間最大努力自転車ペダリング×10回時の最大、平均最小パワーと最大血中乳酸濃度

	最大パワー watt/kg	平均パワー watt/kg	最小パワー watt/kg	最大血中乳酸濃度 (mmol)
豊田　賢治	9．10	8．42	7．70	14．8
沢田　俊祐	9．59	8．54	7．56	15．4
内田　雄二	10．50	9．44	8．40	13．9
作田　幸治	10．41	8．64	7．62	14．3
太田　芳文	11．50	9．59	8．13	12．8
柳本　義文	9．66	8．45	6．54	15．9
前田　誠一	9．70	8．32	7．32	11．0
平　均	10．06	8．77	7．61	14．01
標準偏差	0．80	0．52	0．59	1．67

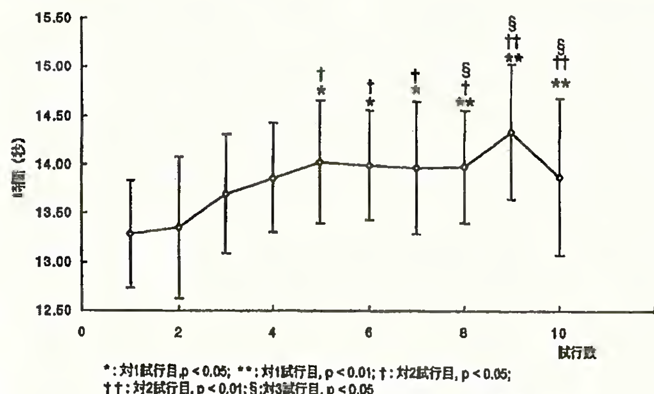


図2　20m−40m−20m走のタイム推移

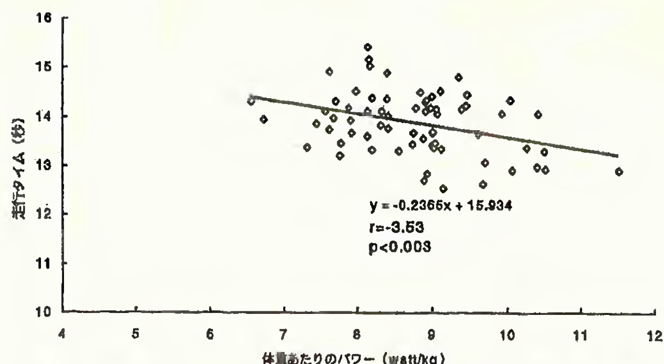


図3　体重あたりの発揮パワーと走行タイムとの間の相関

表3　相関係数

	20m−40m−20m走×10平均タイム	最大酸素摂取量	4mmol時VO2	30m走タイム	20m−40m−20m走時最大血中乳酸濃度
20m−40m−20m走×10平均タイム	1,000	——	——	——	——
最大酸素摂取量	−.679*	1,000	——	——	——
4mmol時VO2	−.667*	.881**	1,000	——	——
30m走タイム	.879**	−.633*	−.608	1,000	——
20m−40m−20m走時最大血中乳酸濃度	−.753*	.362	.457	−.510	1,000

*：P＜0.05；　**：P＜0.01

関分析から算出し、統計処理の有意差は５％未満とした。

結果および考察

有酸素的能力を示すトレッドミルオールアウト走時の体重あたりの全身酸素摂取量は平均で50.7±3.85ml/min/kgであった。また、その際の最高血中乳酸濃度は9.8±1.86mmolであった（表１）。10回の最大努力自転車ペダリング運動時の最大パワー、平均パワー、最小パワーと最大血中乳酸濃度はそれぞれ10.1±0.80watt/kg、8.8±0.52watt/kg、7.6±0.59watt/kg、14.0±1.67mmolであった（表２）。そして、10回の５秒間最大努力自転車ペダリング運動時の体重あたりのパワー出力経時変化を（図１）に示した。その結果６、８、10回目のパワー出力の値が１回目のパワー出力と比較して有意に減少した。また、20m−40m−20m走においては、１、２、３試行の運動初期に対して運動後期である５回目以降に有意な走行タイムの遅延がみられた（図２）。そして、この運動様式での最大血中乳酸濃度は、19.6±3.5mmolにまで増加し、トレッドミル走と最大自転車ペダリング運動よりも有意（P<0.05）に高い値であった。これらの結果から最大努力自転車ペダリング運動と20

m－40m－20m走ともに試行回数の増加に伴って（とくに5試行目以降）パフォーマンスの低下を引き起こし、これらの間には有意（P<0.003）な相関関係が見られた（図3）。このことから20m－40m－20m走が最大努力自転車ペダリング運動と同様に間欠的能力を評価しうるものだと考えられる。また、各運動様式間での最大血中乳酸濃度では、20m－40m－20m走の方が有意（P<0.05）に高い値を示し、最大自転車ペダリング運動がハンドボール選手にとって日常的な運動様式ではないこととハンドボール競技の特性から考えるとハンドボール選手においては、20m－40m－20m走の方が間欠的能力を測定する方法として有用であると考えられる。

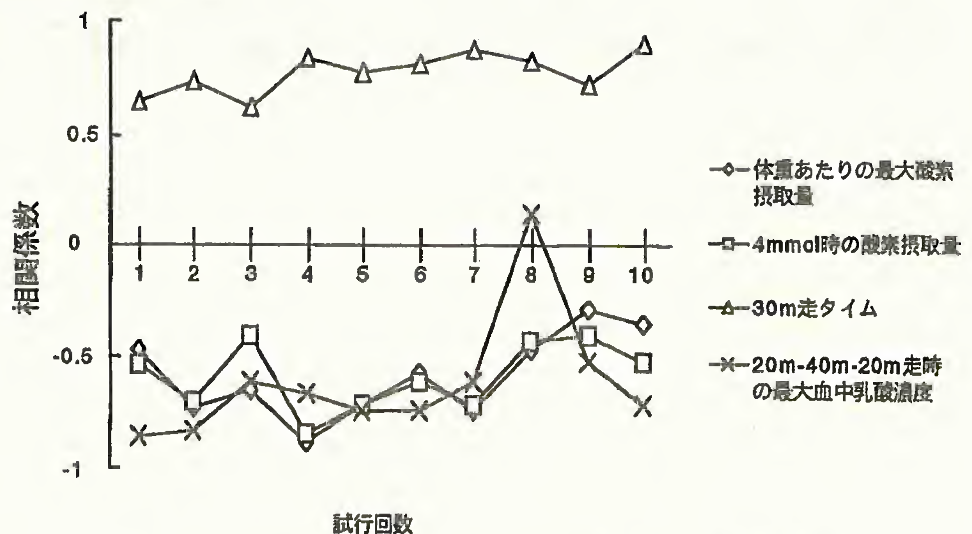


図4　20m－40m－20m走の各走行タイムと体重あたりの酸素摂取量、4mmol時の酸素摂取量、30m走タイム、20m－40m－20m走時の最大血中乳酸濃度との間の相関係数

また、（**表3**）には20m－40m－20m走×10試行の平均走行タイムと体重あたりの最大酸素摂取量、トレッドミルオールアウト走より算出された血中乳酸濃度が4mmol時の酸素摂取量、30m走の走行タイム、20m－40m－20m走時の最大血中乳酸濃度との間の相関係数を示した。その結果、20m－40m－20m走×10試行の平均タイムは、非乳酸性エネルギー機構能力の指標となる30m走タイム、有酸素的能力の指標となる最大酸素摂取量の双方に高い相関係数を示した。また、乳酸性エネルギー機構能力としての20m－40m－20m走時の最大血中乳酸濃度とトレッドミルオールアウト走での4mmol時の酸素摂取量にも相関関係がみられた。

高強度での間欠的な運動では運動中に分解されたATPやPCrが有酸素エネルギーによって休息中に再合成され、次のエネルギー源として利用される**3**）。先行研究**4**、**5**）において、高強度での間欠的な運動では運動初期には非乳酸性エネルギー機構の関与が大きく、試行数を重ねるにつれて非乳酸性エネルギー機構の関与が小さくなり、有酸素性エネルギー機構の関与が大きくなると報告している。本研究では、高強度での間欠的な運動として20m－40m－20m走を45秒インターバルで10回試行おこなった。そして、その10試行の各走行タイムと体重あたりの最大酸素摂取量、トレッドミルオールアウト走での4mmol時の酸素摂取量、30m走タイム、20m－40m－20m走時の最大乳酸濃度の相関関係を（**図4**）に示した。その結果、30m走タイムとの間では、全試行との間に有意（P<0.01）な相関関係がみられた。最大酸素摂取量との間では、2、4、5、6、7、8、10試行目に有意（P<0.05）な相関関係が認められ、このことから運動の後半に有酸素性エネルギーの関与が強くなると考えられる。また、坂井ら**6**）は間欠的ハイパワー発揮の能力には、有酸素性エネルギーの産生能力、とくに血中乳酸濃度を上昇させない能力が大きく関与していると報告しており、本研究の結果においても、20m－40m－20m走の各走行タイムと20m－40m－20m走時の最大血中乳酸濃度の間には、1、2試行目にしか有意な相関はみられなかったが、トレッドミルオールアウト走時に測定した4mmol時の酸素摂取量とは2、4、5、6、7試行目と間欠的運動中盤に有意な負の相関関係がみられた。従って、高強度の間欠的な運動では、乳酸性エネルギー機構でのエネルギー産生能力そのものが優れていることよりも、運動中にできるだけ素早く乳酸を緩衝することができるかどうかの能力が必要であることが示唆された。

参考・引用文献

1．Cuesta,G　Balonmano; [Team　handball]. Madrid. Spanish Handball Federation,1991.
2．田中　守、樋口幸治、溝岡賀子、中根智子、田中宏暁、進藤宗洋、ハンドボールゲーム中の動きの質・量と心拍応答、福岡体育学研究、27(2)：1－13、1997.
3．Essen,B. Studies on the regulation of metabolism in human skeletal muscle using intermittent exercise as an experimental model.Acta Physiol.scand.,454:4－32,1978
4．森田俊介、田中　守、西山逸成、久木文子、竹内正雄、斉藤慎太郎、蒲生晴明、高橋勝美、平成11年度日本体育協会スポーツ・医科学研究報告、23－25、1999
5．山本正嘉、金久博昭、間欠的な全力運動の持久性に関する研究；無酸素性および有酸素性作業能力との関係、Jpn.J.Sports Sci.,9;526－530,1990
6．坂井和明、John Sheahan、高松　薫：間欠的なハイパワー発揮能力と3種のエネルギー産生能力との関係、体力科学、48：453－466、1999

【新IHF評議会開催される】

新会長Dr. ハッサン・ムスタファのもと、国際ハンドボール連盟評議会第1回会議が、1月12、13日にバーゼルで開かれた。

ここで、下記の5委員会の委員が任命された。

[競技組織委員会(COC)]
委員長　ピーター・ミュレマター(スイス)
Dr. アーメッド・アブ・アルーレイル(クウェート)
ラシッド・メスクーリ(アルジェリア)
アレクサンダー・トンクール(オーストリア)
ワイデイル・フォンセカ(ブラジル)
アレクサンドル・コズコフ(ロシア)
ラルス・エリック・クレム(デンマーク)
ピーター・シーヘルシュミット(ドイツ)

[競技規則委員会(PRC)]
委員長　K. シュタインバッハ(アイスランド)
ヒュン・キュン・チョン(韓国)
ババカル・ノドイ(セネガル)
ヨセフ・アンブルス(スロバキア)
クリスター・アール(USA)
ハーバート・イェグリッチ(スロベニア)
マンフレッド・プラウゼ(ドイツ)
ロジェ・グノソー(ベルギー)

[コーチ手法委員会(CCM)]
委員長　アブ・マルズーク(クウェート)
ジャリル・アサド(バーレーン)
プロスペル・ケク(コートジボアール)
フランセティク・ダボルスキー(チェコ)
Dr.ウォルフガング・ボラニー(オーストラリア)
ディートリッヒ・シュペート(ドイツ)

[医事委員会(MC)]
委員長　ジイ・ランゲボルト(オランダ)
Dr. アーメッド・ムスタブ(パキスタン)
Dr. ランレ・グロバー(ナイジェリア)
Dr. ペトラ・プラテン(ドイツ)
Dr. マリオ・ヴェネガス・ペレス(チリ)
ハンス・ホルトハウス教授(オーストリア)
スヴェル・メールム教授(ノルウエー)
Dr. アンドラス・タライ(ハンガリー)

[広報振興委員会(CPR)]
委員長　カリン・ニルッソン・グリーン(スウェーデン)
バダー・アル・ダヤブ(クウェート)
保　留(アフリカ)
アラン・ルンド(デンマーク)
ラファエル・セプルヴェダ(プエルトリコ)
Dr. ゲルド・ブツェク(ベラルーシ)
サイド・ブアムラ(アルジェリア)
マルク・ジゼルス(ベルギー)

【ビーチハンドボール世界選手権は秋田で開催に】

ビーチハンドボール世界選手権は、当初2001年2月に開催予定をしていたが、7月に延期、またブラジルでは行われないこととなった。さらに、開催上の問題や、ビーチハンドボールが8月秋田で開催されるワールドゲームズの公開競技として行われることから、IHFはビーチハンドボール第1回世界選手権を秋田ワールドゲームズで行うことを決定した。

【ハンドボールプレイヤー・オブ・ザ・イヤー】

「2000年ハンドボールプレイヤー・オブ・ザ・イヤー」の投票が、IHFとアディダスにより、10回目の投票が行われている。以下の選手が、WHM編集チームによってノミネートされている。

(女子)

Ilda Bengus (ANG)
　パワフルなスローイングのフローター。

Ausura Fridrikas (AUT)
　国際試合でのプレーはもうしないといっているが、2000年は素晴らしい活躍だった。

Anette Hoffmann-Moberg (DEN)

シドニーの金メダルは、この俊敏な左ウィングの貢献が大きい。

Chana Masson（BRA）
ブラジルの才能豊なＧＫ。シドニーでは最強のＧＫのうちの一人である。

Veronique Pecqueux-Rolland（FRA）
フランスのディフェンスに素晴らしい役割を果たしているポストプレーヤー。

Bolana Radulovic（HUN）
素晴らしい才能をもつゴールゲッター。ハンガリーを勝利に導く右フローター。

Seong Ok-Oh（KOR）
熟練した技を持つ韓国のプレーメーカー。産休を終えシドニーで素晴らしい復活をした。

Heidi Tjugum（NOR）
シドニーで活躍した素晴らしいＧＫのうち、あえて１名を選んだ。

（男子）

Talant Duishebaev（ESP）
ワールドハンドボールプレイヤー・オブ・ザ・イヤーに２度選ばれたこの選手は、エレガントなプレーで、スペインをシドニー銅メダルへと導いた。

Andrej Lavrov（RUS）
３つ目のオリンピック金メダルを獲得した初めての選手であり、ロシアの大黒柱。

Stefan Loevgren（SWE）
シドニーで素晴らしい活躍を見せ、得点王となった。

Nabil Gohar（EGY）
ディフェンスに優れた、エジプトのポストプレーヤー。

Jackson Richardson（FRA）
ディフェンスのすべての基準は、またこの選手が決めた。

Christian Schwarzer（GER）
この力強いドイツのポストは、特に試合の全体像を見ることに優れ、味方の選手の長所を引き出すベストな使い方が分かっている。

Dragan Skrbic（YUG）
ゴールを狙うことに貪欲な、強い性格のポストプレーヤー。

Rolando Urios（CUB）
俊敏なポストで、オフェンスでもディフェンスでも頼りの綱である。

Kyung Shin-Yoon（KOR）
オフェンスでもディフェンスでも長年プレーメーカーとしてはもちろんのこと、間違いなく世界のゴールゲッターである。

このコンテストに参加を希望する人は、「ハンドボールプレイヤー・オブ・ザ・イヤー」の男女もしくは男子か女子プレーヤーの名前をはがきに書いて、下記宛送付してください。

2001年４月１日までに到着のこと。

International Handball Federation-World Handball Players of the Year-
Lange Gasse 10 CH-4052 Basel-9 Switzerland

いつものように、アディダス社から応募者に抽選で賞品があたる。

【2000年フォト・オブ・ザ・イヤー募集中】

テレビ時代にあっても写真は特別な美意識とハンドボールの素晴らしいダイナミズムを発信する。あらゆるスポーツがその姿の素晴らしいところを公に見せるため、魅力的で人目を引く写真を必要としている。このためＩＨＦでは、第５回目になる「フォト・オブ・ザ・イヤー」を発表する。このコンテストの賞金総額は約72万円である。

このコンテストは年を重ねるごとに人気を得ており、昨年は30カ国から100枚の応募があった。

2000年１月１日から12月31日までに新聞雑誌に発表されたハンドボールの写真（アクションショット、周辺のハプニング、雰囲気など）で、オリジナルであることを証明できる出版物と一緒に提出できれば、誰でも応募できる。

応募者は、すべてに表題をつけ、日付、写真を撮った場所、試合であればその趣旨と、写真に写っている人の名前も含めて連絡のこと。

参加方法：コンテストに参加するためには、写真（一人あたり３枚まで）とその出版物をＩＨＦの写真コンテスト係（Photo Competition）まで送る（送付先は上記ＩＨＦ本部）。

提出された写真の版権は、コンテストが終わるまでＩＨＦに帰属する（締切は2001年７月１日）。

第25回日本ハンドボールリーグプレーオフ展望

昨年3月20日、3年連続で延長戦へ突入かと思わせる程の死闘を演じてくれたプレーオフ。今年度はどのような激闘を見せてくれるか。

男子レギュラーシーズンは世界選手権の為、2ケ月の休みに入る前（9週終了時点）では、湧永製薬が本田技研に大敗、大同特殊鋼は湧永製薬に惜敗、本田技研は大同特殊鋼に完敗と、三つ巴の様相を呈してきた。勝ち点1差の中に3チームがひしめき、中川らの活躍で粘る三陽商会と引き分けた大同特殊鋼が2位。若手で臨んだ本田技研がデンソーに引き分け3位と、昨年に引き続きこの3強のプレーオフ出場が濃厚である。しかし今年で日本リーグ撤退が決定している三陽商会も、これからの上位陣との直接対決で勝ち点を伸ばし、初のプレーオフ出場で有終の美を飾りたいところである。

今シーズンを振り返ると、初夏の名古屋での全日本実業団選手権。アイスランドのD・シグルドソン、スペイン“武者修行”から帰国した田場を擁し、ヴォル新監督体制の本田技研を僅差で退け3連覇。秋の国体は純血対決となったが、冨本、莪本で粘る大同特殊鋼をMVP小沢の活躍で広島（湧永製薬）が、またも僅差で3年ぶりに制した。12月の総合では、今季初の決勝対決である大同特殊鋼対本田技研。延長戦の激闘の末、終了3秒前白の決勝ゴールで本田技研を退け、2連覇を果たした。現在のリーグ順位通りの戦績となっているが、本田技研の実力からいっても今シーズン無冠で終わるとは考えられない。それぞれ世界トップレベルの外国人選手のいる3チーム。脇を固める日本人選手の出来如何で、勝負を決しそうである。

女子は昨年からOSAKI OSOL、大和銀行、ジャスコと日本リーグ撤退が相次ぎ、9チームでの争いとなっている。2月10日現在、イズミは勝ち点22とほぼプレーオフ出場を確実にしている。あと2チームは、2位の北國銀行から6位立山アルミまで勝ち点5差の中に5チームがひしめき、直接対決を含め勝ち点20前後でのプレーオフ出場権争いとなりそうである。

今シーズンに目を向けると、全日本実業団、国体と、オムロンが無冠に終わった昨年の名誉挽回と2冠を達成し、3冠目と総合へ乗り込んだが、世界トッププレーヤーの呉と日本人選手とが完全にコンビネーションがとれ、妊娠中の林の穴を埋めたイズミに奪取された。日本リーグ後半には復帰かと伝えられる林のイズミ。ベンチ、選手ともに総合での雪辱を期すオムロン。現在リーグ2位、総合でも3位の北國銀行、リーグ4位、総合3位のシャトレーゼ。

まずはプレーオフ出場に向け、直接対決が見ものである。決勝では“負けないイズミ”神話が続き3連覇なるか。今期絶好調のオムロンが総合の借りを返すのか。いずれにしても、準決勝・決勝と目の離せない戦いになりそうである。

第25回日本ハンドボールリーグプレーオフ

［日程］

平成13年3月17日（土）
- 15時より　女子準決勝
- 17時より　男子準決勝

平成13年3月18日（日）
- 13時より　女子決勝
- 15時より　男子決勝

［会場］

駒沢体育館（東京）
東京都世田谷区駒沢公園1－1
電話 03－3421－6121

［テレビ放映］

1）TVK

		試合開始時間	TVK放映時間
平成13年3月17日（土）	女子準決勝	15：00	18：30〜21：45
	男子準決勝	17：00	同上
平成13年3月18日（日）	女子決勝	13：00	18：30〜21：45
	男子決勝	15：00	同上

2）スカイA

女子準決勝	3月24日（土）17：30〜19：00
女子決勝	3月26日（月）18：30〜20：00
男子準決勝	3月25日（日）23：00〜24：30
男子決勝	3月26日（月）20：00〜21：30

がんばれハンドボール10万人会情報

新会員の紹介（2000年9月～2001年1月の間に入会・更新された方々）

【北海道】
高橋辰夫
【岩　手】
箱崎敬吉
【秋　田】
沓沢武義
【山　形】
五島訓二
【福　島】
宗形守敏
【栃　木】
坂本定芳
【群　馬】
岡田智美
神戸貴純
星野英雄
高宮和浩
小須田定夫
大竹幾好
大竹　誠
萩原正一
萩原よし江
飯塚克己
飯塚まゆみ
山口浩章
杉浦康二
神山忠仁
塚越晶子
神戸英俊
菊地洋正
飯塚紀子
安田進一郎
佐藤光晴
【埼　玉】
岡村昭二
【千　葉】
窪田　優
【東　京】
佐藤俊男
佐藤映子
川上憲一
蒲生澄子
渡辺光康
豊田彦治
渡邊佳英
【神奈川】
二宮和絵
【山　梨】
堀内和弘
三盛　荘
天野盛夫
【長　野】
青木　崇
服部博幸
【新　潟】
石田善彦
春日快雄
庭山ミエ
庭山浩一
庭山政幸
藤崎　孝
藤崎春香
藤崎芙美代
藤崎修子
小川初音
寺崎　修
笠原道夫
小池久明
【富　山】
森　雅子
飯山真貴子
中浦雅子
松田伊甲子
城川育子
田中要子
越前明子
西坂真理子
吉水慎一
㈱永田メディカル
【石　川】
伊藤義直
【福　井】
村田嘉孝
北陸電力ハンドボール部
【愛　知】
田中基明
冨田憲治
太田耕治
間瀬和義
川岸光男
【三　重】
加藤克彦
大石博義
細野秀男
小川英子
細野健一郎
細野美紀子
田口　隆
田口麻由美
田口　亮
田口大貴
秋田浩美
細野かづへ
豊岡維佐夫
豊岡由記
豊岡美智子
豊岡諒介
北村元勝
佐藤一恵
小川　信
三谷日出雄
松原晋哉
市橋正守
中里賢二
中谷茂樹
尾崎直司
小林美希
秋本幸栄
嶋谷久則
小池暢男
小川幸弥
貴島常治
【岐　阜】
杉山二女代
【京　都】
守本幸三郎
石井惇史
【大　阪】
山中善之祐
中塚冨佐子
川口順弘
山出敏二
橋本義人
高橋精一
辻本孝仁
長嶺利昭
【鳥　取】
萬　隆志
【岡　山】
後山富士水
【広　島】
倉澤　孝
深見逸子
紫苑
矢野エイ子
森岡　勝
山崎正則
胡浜茂夫
木坂直樹
迫広清士
立川正史
清永宏隆
高杉国男
戸田政弘
深見ちひろ
寺地久志
小城　緑
柏原信行
白井謙次
塩見　博
酒井幸雄
樋野村　勉
松本昌之
河野芳弘
井上啓次郎
市原竜太
湯田千鶴
【香　川】
藤沢秋義
末澤光夫
松原　忠
【愛　媛】
柳原　豊
柳原　奨
近藤百雄
柳原真弓
渡辺弘安
越智　誠
越智理佳
越智裕介
越智皓平
越智聡郎
東福拓朗
東福康浩
東福浩太朗
中川英二
木野昭美
木野健志
木野健士郎
平井　学
鈴木寿洋
真鍋篤正
加藤誠一
松本敏典
加藤久勝
村上一志
山川富美夫
片岡重慶
柳原政子
柳原　章
合田邦恵
柳原　勉
井上博史
平井　貢
山本耕一
岩瀬雅洋
山本千絵
山本菜緒
上野勇気
上野裕司
上野元気
吉田亮一
源代太一
野中　聡
井上浩二
山内英作
藤原雅彦
加藤　淳
宮本裕士
壺内美津子
壺内博章
加藤奈津子
野本　侑
野本　孝
吉住牧人
芝　高徳
正岡史英
正岡勝英
二神浩二
田原久彰
橋本繁人
田原秀計
山田恵子
【福　岡】
楠原　隆
松本浩志
宮内貴博
新荘加代子
熊本尚史
石井一宏
【長　崎】
柴田正男
末吉和広
高橋智子
浅田五郎
浅田美穂子
山下　翠
【熊　本】
大島隆志
三角保之
大村守也
高島協助
上野信行
津田　修
島田秀四
【大　分】
小林浩一郎
梶原敬義
【宮　崎】
末廣芳文
黒木新一
野村徹三
【沖　縄】
大城　聡
大城大二郎
大城太郎

協会だより

平成12年12月度 常務理事会

日　時　平成12年12月16日（土）
　　　　午前9時30分～11時30分
場　所　広島県立総合体育館小会議室
出席者　中澤副会長、山下専務理事代行、常務理事8名、理事2名、参事3名、監事1名、事務局2名

報告事項

1. IHF・AHF総会について

AHF総会で日本協会渡邊副会長が、AHF副会長に選出されたこと、ならびにIHF総会について報告。

また、途中スペインに立ち寄り、欧州施策の打ち合わせ、カタルーニア連盟との意見交換を行ったことを報告。

2. 平成12年度事業予算執行状況について

厳しい財政の中、事業執行に当たり、状況を考慮してあたるよう依頼があった。

3. 助成金・補助金取り扱いの改善報告について

改善計画書をJOCと日本体育・学校センターへ提出した報告。

4. がんばれハンドボール10万人会推進状況

各都道府県別入会状況、会報発送報告。

5. 全日本学生選手権について

11月22日より26日まで、広島市で開催、上位より男子2大学、女子4大学が全日本総合に出場する報告。

6. 東アジア大会について

JOCよりの、日本代表選手団編成方針の報告。開催期間は5月20日より26日、場所は住吉スポーツセンター等の報告。

7. 男子世界学生選手権大会について

12月20日より1月5日まで、ポルトガルで開催。

帰国報告会を、1月21日水海道市民体育館でアテネ強化施策の一環として実施する。

8. 日・中・韓社会人大会について

6月13日より20日まで、韓国で開催。AHF総会で開催に向けて一致した。

9. NTSセンタートレーニング開催日程について

実施に向け、連携を密にするよう要望。

10. 日本リーグ途中経過について

25回大会、観客動員数について報告。

審議事項

1.平成13年度事業計画、予算策定の基本方針について

引き続き厳しい財政状況から、前年比15％削減の予算策定が依頼された。

13年度以降、事業推進のための財源確保が急務となることから、登録金の見直し、個人登録の拡大など、意見があった。

登録を一本化して効率を上げる提案があった。

未登録者が競技会等に参加した場合のペナルティー等を含めた改訂案を作成することとした。

2. がんばれハンドボール10万人会還元金について

会員数または会費総額に還元率を乗じた還元金を還元すること、また、還元率を承認。

3. プロ契約について

日本協会競技者資格規程にプロ競技者の条項を設け、一部手直しをすることで承認。

4. 平成13年度事務局人事について

平成13年3月より新事務局員採用を承認。

5. アテネ強化特別委員会記者発表につ

いて

2月実施を目途に検討する。

6. 普及特別委員会について

委員会の進め方、メンバーについて報告。

7. ビーチハンドボールについて

2001年世界選手権ブラジル大会が、大会の中止もしくは延期のため、すでに実施した強化合宿費用の支出について承認。秋田ワールドゲームズ、選手選考会を5月に開催する「さざなみ大会」で行うことを了承。ビーチハンドボール登録について、制度化する。

8. マスターズ大会について

教職員連盟と共催として実施することを承認。

9. 国体の簡素化に関する基本方針について

日体協からの依頼により、設備、整備、用具、リハーサル大会の簡素化を了承。

10. 競技方法の一部変更について

試合前のトスを試合直前に行う。

11. 全日本総合選手権大会について

平成13年度、53回大会は、女子世界選手権参加のため、男女分離開催を了承。13年度以降開催地を、新幹線沿線地で決めることを確認。

平成13年1月度 常務理事会

日　時　平成13年1月13日（土）
13時～17時

場　所　東京体育館第4研修室

出席者　中澤副会長、山下専務理事代行、常務理事8名、理事2名、参事2名、監事2名、事務局2名

報告事項

1. がんばれ10万人会状況について

サポート会員の都道府県別募集状況報告。会員ゼロの県に対し状況を把握し、募集に向けて働きを依頼する。

事務処理手順改正について報告がなされ、1月より実施。

2. 岡山国体競技会場について

鏡野会場について了承したことを報告。

3. ビーチハンドボール関連

IHFカレンダーに秋田ワールドゲームズ日程が記載された。

4. 全日本総合選手権大会について

第52回広島大会は、男子大同特殊鋼、女子イズミが優勝した。

5. U－23男子世界学生選手権大会並びに帰国報告会について

第16回男子世界学生で、11位の報告。監督及びスタッフから分析を含め結果報告書の提出を求めることとした。帰国報告会として実業団選抜チームと水海道市民体育館で試合を行う。

6. 退場者電光掲示板について

改良退場者電光掲示板を購入する。各大会に有料レンタルする。プレーオフで活用する方向で協議する。

7. 検定業者の新加入について

13年度より、ゴール製造業者の加入を承認した。

8. 文部科学省名称変更について

中央省庁再編に伴い、寄附行為上の管轄省庁の名称変更依頼があり、対応することを報告。

9. スポーツ振興くじの個別打ち合わせについて

スポーツ振興くじについて、JOCとの打ち合わせがあり、日本協会出席者を報告。

10. 日本体育・学校健康センターの調査について

助成金の使途について、調査が行われることを報告。

審議事項

1. 平成13年度事業計画（案）について

各常務理事より事業計画（案）に沿って、説明がなされ承認した。

2. 平成13年度予算（案）について

引き続き厳しい経済状況の中、前年度対比15パーセント減の予算策定依頼による、各常務理事より申請の予算を尊重して、予算案を提示した。特別会計については、委託金等が確定次第、一次補正予算を提示することで了承した。

13年度については、登録金の見直しが必要との意見があった。

3. 平成13年度人事について

会長一任とすることとなった。

4. 国際関連事業について

AHF新設のマーケティング委員会メンバー登録者を決定した。

AHF2001総務・TCセミナー、2001－2002年選手権・予選のホストについて、いずれも断ることとした。

東アジア地区セミナー、日本メンバー選出について、専務理事代行に一任した。

5. 大崎財団平成13年度助成事業申請について

従来の事業を申請することを決定。

6. 国体夏季大会移行について

1種別全県出場と増員を条件に2007年秋田国体から移行すること、その他コートの確保などの条件で提案。全国理事会で承認後、日体協国体委員会へ提出することを承認。

7. 全日本総合選手権大会の問題点について

男子決勝戦における問題について、反省会を両チーム立会人等を含め実施することを決めた。大会罰則規程について、失格にあたる項目を検討する意見があった。

8. 登録業務について

13年度より各登録区分の一元処理をし、登録証を発行する。

9. 日本リーグオーナー会議について

1月16日京王プラザホテルにて開催するオーナー会議について、議事内容等について打ち合わせた。

10. 東アジア大会、選手団編成について

男女選手16名、役員16名を申告した。正規の通知により変更がありうることで了承。

⊙ 訂正とお詫び ⊙

■2000年８月号（№410）、18ページ『ＮＴＳナショナルトレーニングシステムのブロックトレーニング要項について』の７番「将来はＮＴＳよりＵ－16・Ｕ－19を選抜」は「将来はＮＴＳセンタートレーニングで優秀な選手はＵ－16、Ｕ－19に推薦する」に訂正致します。

一部に理解を頂けない表現でありましたことをお詫び致します。今後共、強化事業に深い理解とご協力をお願い申し上げます。

（強化委員長・緒方嗣雄）

■先月号（№415）28ページ、ＩＨＦニュースのＡＨＦ役員表で、渡邊副会長の国名が「ＪＰＮ」のところ、「ＪＡＰ」とのミスプリントがありました。各方面にご迷惑をおかけしたことをお詫び致しまして、訂正致します。

NTSビデオのご案内

申し込み方法

現金書留で、下記の住所に申し込んでください。
〒150-8050　東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館内
財団法人　日本ハンドボール協会
NTS強化指導教本＆コーチングビデオ係

１セットの場合：10,000円＋送料（　900円）＝10,900円
２セット以上：（セット数×10,000円）＋送料（1,000円）
セット内容：強化指導教本……１冊、
コーチングビデオ60分VTR……２巻



[3月の行事予定]

〈会議〉
★常務理事会／３月10日(土)　東京

〈大会〉
★第25回日本リーグプレーオフ
３月17日(土)～18日(日)　東京駒沢体育館

★第24回全国高校選抜大会
３月23日(金)～28日(水)
富山県氷見市ふれあいスポーツセンター

HAND BALL CONTENTS MAR

柔らかな感触で、最適なバウンド！

new



新発売

new



PKCH3-AD DX
5,500円

new



PKCH2-AD DX
5,400円



PKCH1-ADJ
3,600円

手縫い・国際公認球





PKCH3-AD
4,600円



PKCH2-AD
4,500円



PKCH2-ADR
2,700円



PKCH3-ADR
2,800円



MIKASA®
明星ゴム工業株式会社

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四一六号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十三年二月二十六日印刷 平成十三年三月一日発行

東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三

編集兼発行人 市原則之

価格は登録金に含む